

令和5年度  
香川高等専門学校外部評価委員会 議事次第

日時：令和6年2月6日(火) 13:30～15:30

場所：香川高等専門学校高松キャンパス

(第一会議室)

○開会

○校長挨拶と趣旨説明

○委員紹介

○委員長選出

○議題

1. 香川高等専門学校を取り巻く現状と活動

[高専を取り巻く現状]

- ・「Society5.0型未来技術人財」育成事業
- ・スタートアップ教育環境整備事業
- ・香川大学との連携教育プログラム
- ・企業との連携によるPBL型授業の取り組み
- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
- ・学生指導支援体制

[活動状況]

- ・AI社会実装教育研究本部
- ・社会基盤メンテナンス教育センター
- ・大学及び自治体との連携活動
- ・地域との連携
- ・グローバル化への対応
- ・その他概要

2. 令和4年度香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

○意見交換

○閉会

## 令和5年度 香川高等専門学校外部評価委員会 資料一覧

- ・議事次第
- ・資料一覧
- ・出席委員名簿
- ・座席表
- ・香川高等専門学校外部評価委員会規程

### 議題資料①

香川高等専門学校を取り巻く現状と活動

### 議題資料②

令和4年度香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

### 参考資料

- ・令和5年度 学校要覧
- ・2024 学校案内
- ・香川高専だより32号、33号
- ・香川高等専門学校産業技術振興会会報 Vol. 15
- ・香川高等専門学校 年報2022

香川高等専門学校 外部評価委員会 出席委員名簿

(令和 5 年 11 月 22 日現在)

香川県教育委員会教育次長	白井 道代
香川県商工会議所連合会専務理事	安藤 照文
香川県中学校長会会長	大谷 伸一
香川高等専門学校産業技術振興会会長	住田 博幸
香川大学創造工学部長	末永 慶寛
公益財団法人かがわ産業支援財団理事長	近藤 清志
高松工業会副会長	黛 龍典
高松市副市長	加藤 昭彦

(所属の五十音順 敬称略)

# 香川高等専門学校外部評価委員会規程

平成 21 年 10 月 1 日制定

(趣旨)

**第 1 条** この規程は、香川高等専門学校内部組織規則第 22 条第 2 項の規定に基づき、香川高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）について定めるものとする。

(審議事項)

**第 2 条** 委員会は、香川高等専門学校の点検評価を踏まえ、今後の教育・研究並びに学校運営の一層の発展・充実に資するため、第 3 条に定める外部評価委員による次の各号に掲げる事項を評価する。

- 一 教育理念、目的、目標及び方針に関すること。
- 二 教育活動に関すること。
- 三 学生支援に関すること。
- 四 研究及び地域連携に関すること。
- 五 国際交流に関すること。
- 六 管理運営及び施設整備に関すること。
- 七 その他委員会が必要と認める事項

(組織及び任期)

**第 3 条** 委員会は、校長が評価項目に関し、十分な評価能力を有すると認められる学外の評価委員をもつて組織する。

- 2 委員は、校長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

**第 4 条** 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

(代理者の出席)

**第 5 条** 第 3 条の委員は、やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該評価委員があらかじめ指名した代理者を、委員会に出席させることができる。

(評価実施方法)

**第 6 条** 委員会は、資料による調査、本校で実施するヒヤリング及び実施調査等で評価を実施する。

(事務)

**第7条** 外部評価の実施に関する事務は、総務課総務係において処理する。

(その他)

**第8条** この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

**附 則**

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成28年12月16日から施行する。

# 本校を取り巻く現状と活動



高松キャンパス



詫間キャンパス

香川高等専門学校  
R05年度外部評価委員会資料

# 本校を取り巻く現状

## 近未来に向けてさらに輝く高専(KOSEN)として活躍する！

国立高等専門学校機構理事長 谷口 功

高専スピリッツであるチャレンジ精神を磨き、近年進めてきた起業家の育成、AI技術を駆使した高度技術、DX化やカーボンニュートラル、エネルギーや環境に関する諸課題など、喫緊の課題に立ち向かう高度人材の育成に応える。

### 取り巻く環境の変化

- 年少人口の減少
- 志願者数の減少
- 進路状況
- 予算の削減

### 国立高専機構事業

- 未来技術人材育成事業
- スタートアップ教育環境整備事業

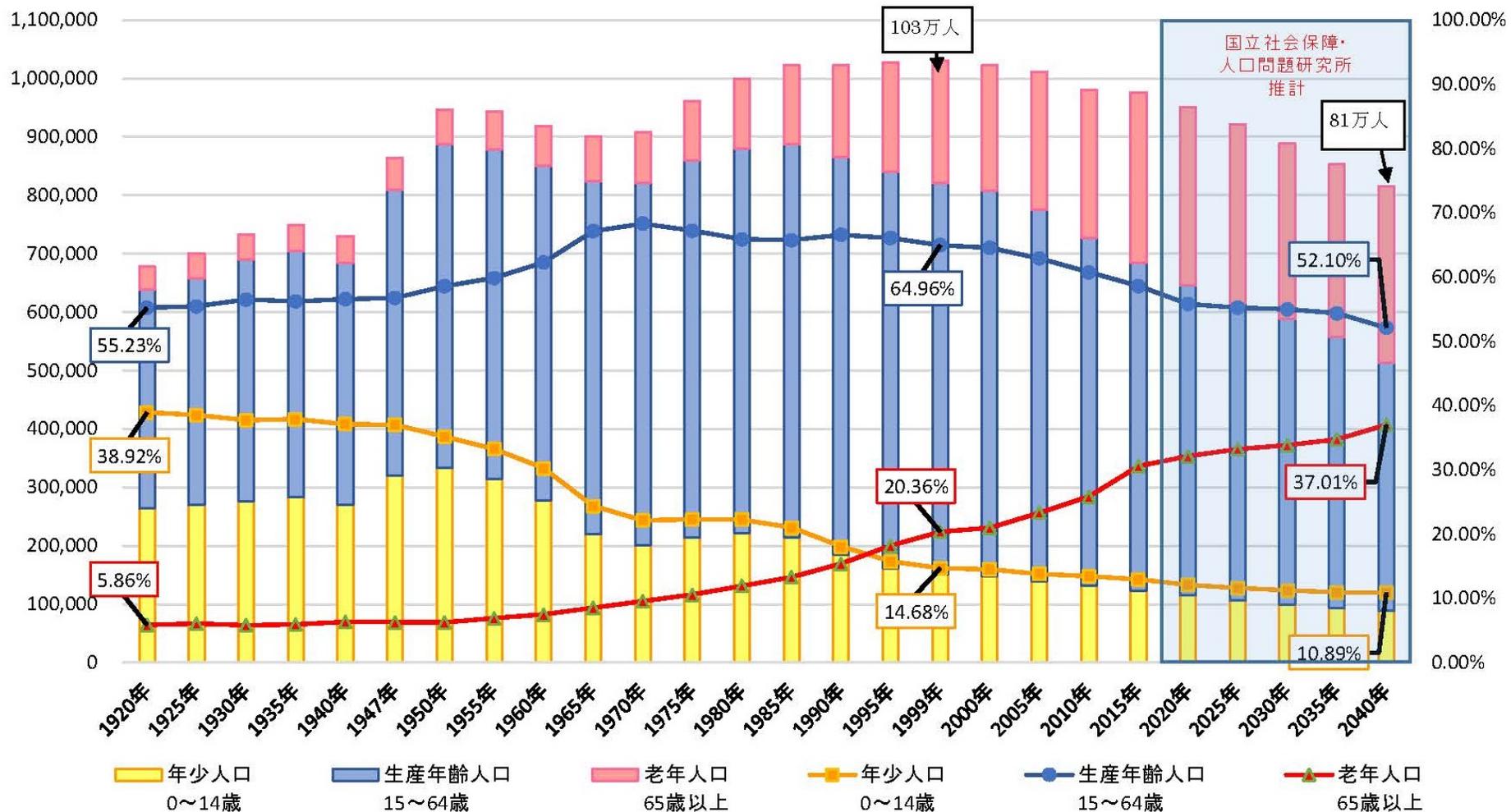
### 特徴ある取り組み

- 香川大学との連携教育プログラム
- 企業との連携によるPBL授業
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム
- 学生支援体制
- 広報戦略

# 香川県の人口割合の推移

## 年少人口 の減少

### 年齢3区分別人口の推移【香川県】



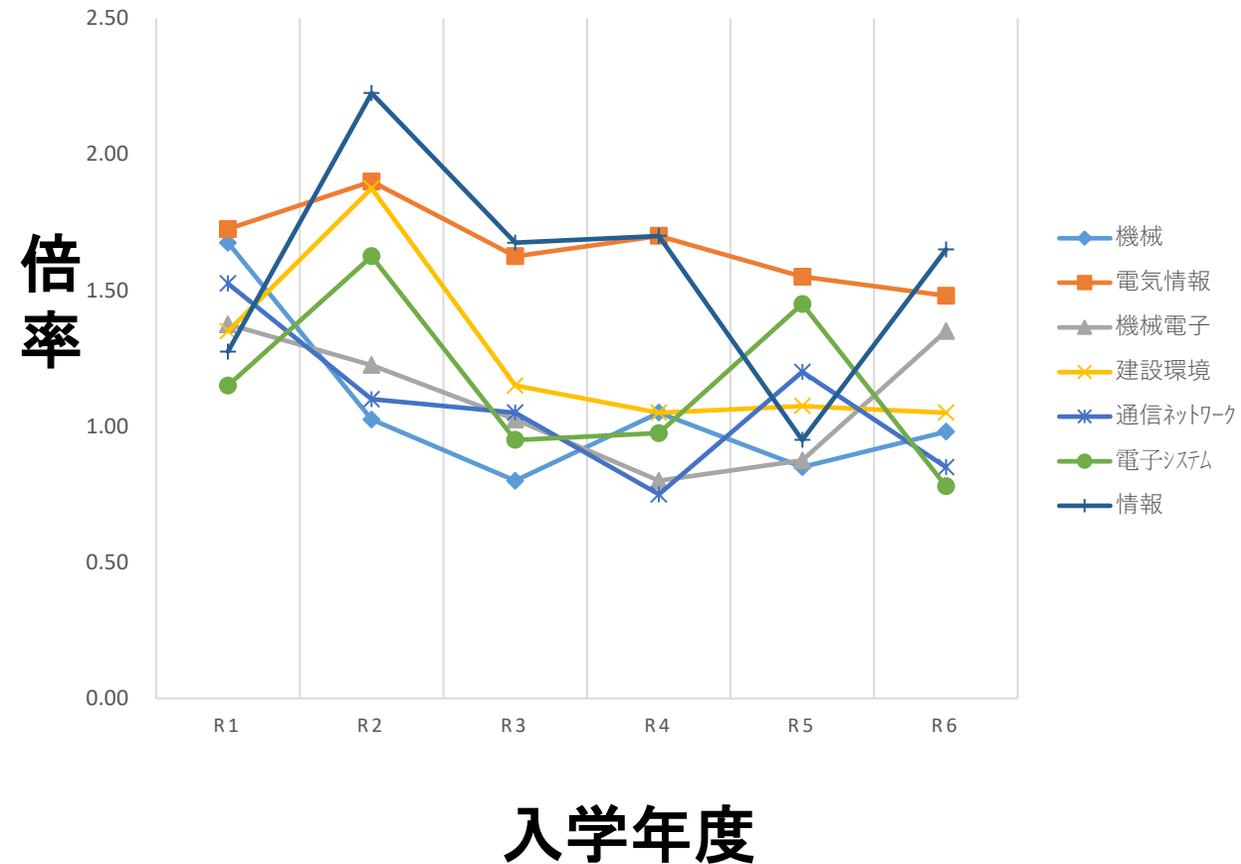
出典：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

# 県別志願者数の推移と本校の入試倍率の推移

## 県別志願者数

	R2	R3	R4	R5	R6
香川県	399	299	284	282	283
岡山県	25	15	23	18	24
徳島県	5	8	7	4	6
愛媛県	2	2	2	4	3
高知県		1	1		1
東京都					3
神奈川県					1
埼玉県				1	
秋田県	1				
福井県		1			
静岡県		1			
大阪府	2	1		1	
奈良県				1	1
兵庫県	2	2	3	3	1
広島県	2		1	1	2
山口県				1	
福岡県				1	
大分県				1	
佐賀県		1			
計	39	32	37	36	42
国外	1				
志願者数計	439	331	321	318	325

## 推薦と学力の第1志望の合計



# 本校の進路状況とキャリア教育(1)

## R5年度 進路状況

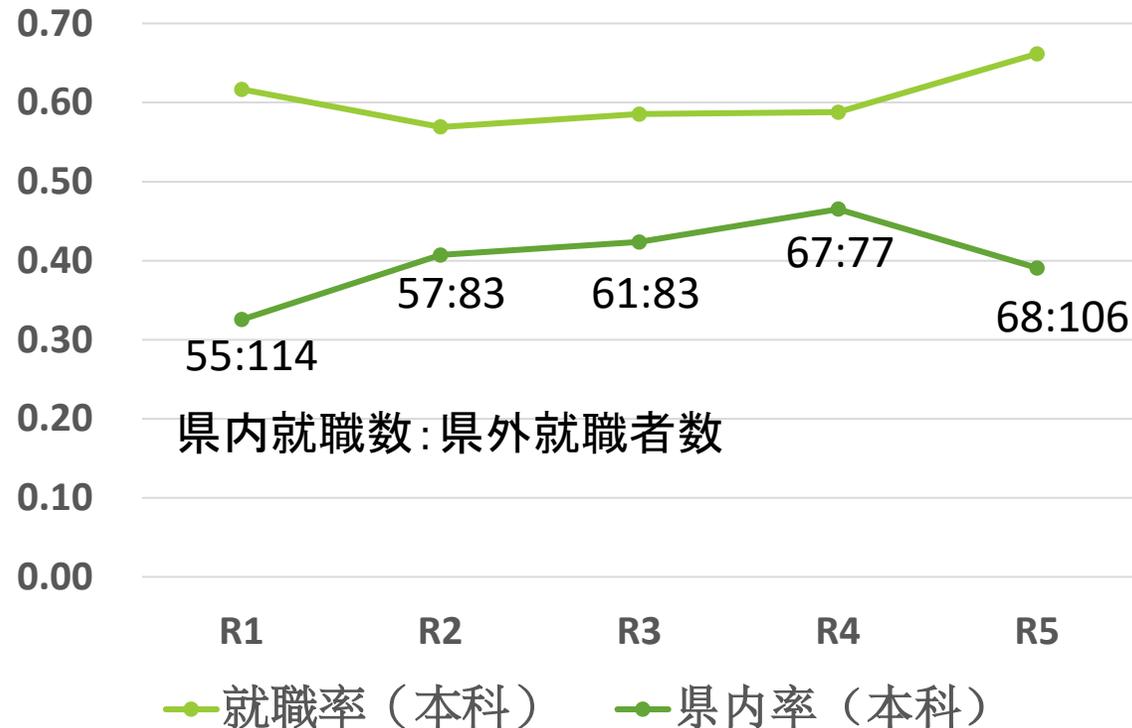
学 科	学生数	卒業 予定数	進 学 者 数	就職者数			就職 率	そ の 他	求人 会社数		
				計	県内	県外				県内 率	
高 松	機械工学科	47	46	11	32	11	21	34%	74%	3	882
	電気情報工学科	36	36	20	15	5	10	33%	43%	1	
	機械電子工学科	38	38	14	23	6	17	26%	62%	1	
	建設環境工学科	44	43	12	30	12	18	40%	71%	1	
	小 計	165	163	57	100	34	66	34%	64%	6	
詫 間	通信ネットワーク工学科	38	38	8	30	12	18	40%	79%	0	654
	電子システム工学科	35	35	8	25	14	11	56%	76%	2	
	情報工学科	38	38	16	19	8	11	42%	54%	3	
	小 計	111	111	32	74	34	40	45%	70%	5	
合 計	276	274	89	174	68	106	39%	66%	11		

その他は進路  
未定者、研究生

# 本校の進路状況とキャリア教育(2)

## 県内企業就職への取り組み

就職率・県内率の推移(本科)



R1～R4にかけて、県内就職率が上がっている。

### 合同企業説明会

産業技術振興会企業を多く含む、  
本校での合同説明会

### 低学年へのキャリア教育

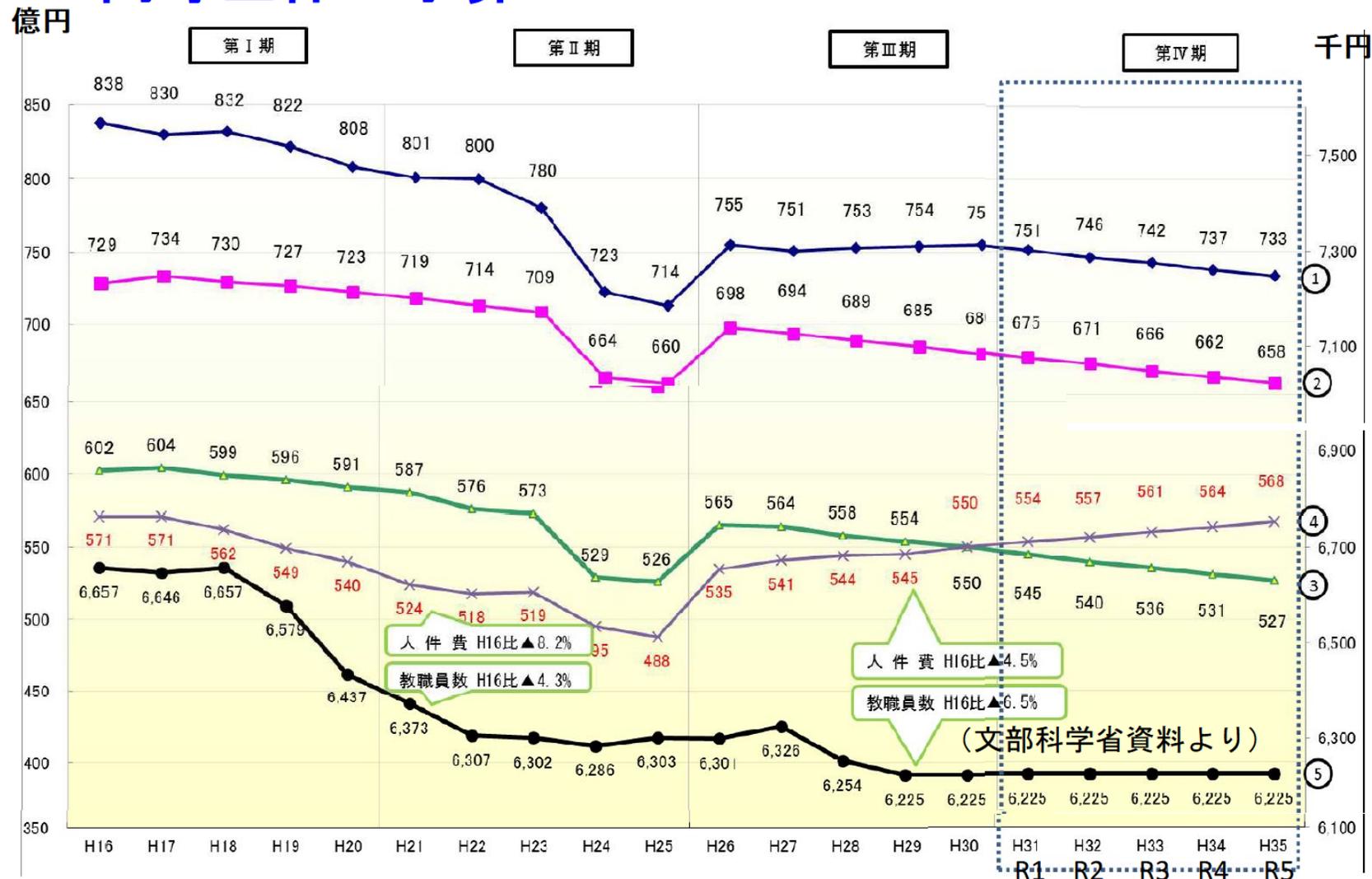
香川県労働政策課の出前授業(4社)、  
県内企業によるキャリアガイダンス(3社)

### 3, 4年生への配布物

かがわ企業ガイド(ワークサポート香川)  
私たちの地域の仕事(教育委員会)  
Tec × Tec&Cha × Cha(朝日オリコミ四国)  
その他

# 予算(1)

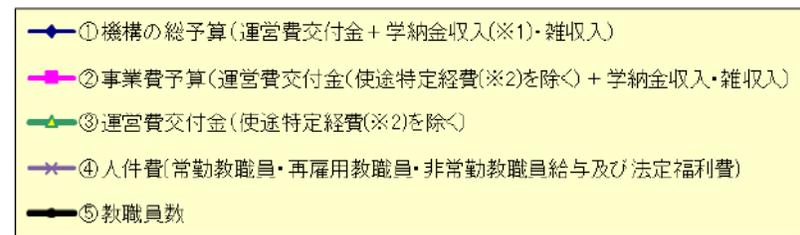
## 高専全体の予算



## R6年度 高専機構本部から文科省への予算の重点配分要望項目

- 高専の高度化
  - ・ 高専発！「Society5.0型未来技術人材」育成事業
  - ・ 起業家教育の充実
  - ・ 社会ニーズを踏まえた高専教育の推進
  - ・ 学生の学びの環境の充実
  - ・ 理工系人材の早期発掘
  - ・ 学修環境の基盤となる設備整備
- 高専の国際化
  - ・ 海外で活躍できる技術者養成
  - ・ KOSENの導入支援と国際標準化

(左グラフは高専機構全体の予算推移)



※1 学納金収入 : 授業料・入学科・検定料収入  
 ※2 使途特定経費 : 特別教育研究経費・特殊要因経費

# 広報戦略

## ○「香川高等専門学校の広報に関する基本方針」の策定 (戦略的な広報活動の展開と香川高専のブランド力向上)

- ・本校の活動や成果を積極的に社会に発信し、各ステークホルダーに応じて、戦略的な広報活動を計画、実施  
ステークホルダー: 受験生及びその保護者、在校生及びその保護者(後援会)、卒業生(同窓会)、教職員、教育機関、地域住民、地域自治体、産業界、行政機関等

## ○取材依頼対応と記者クラブへの投げ込み (メディアによる幅広い層への情報発信、香川高専のPRと地域社会への貢献)

- ・日本経済新聞社、四国新聞社、特許庁(広報誌「とつきよ」)等の取材依頼に対応
- ・記者クラブへの投げ込み4件(橋梁点検技術者育成のための講習会、土木施設見学・体験ツアー、全国高専プロコンの三豊市長表敬訪問、「起業家工房」オープン)
- ・香川高専の活動に関する記事等が新聞等メディアに掲載された際は、学内グループフェアに掲載、高専機構に随時報告

## ○ホームページの活用 (速報性を伴う情報発信と蓄積性・検索性に優れた情報発信、学生活動・教育研究活動の見える化)

- ・HPトップに61件の「お知らせ」と187件の「トピックス」を掲載  
学生活動、各種イベント、地域連携、国際交流等の取組の情報を広く発信
- ・広報誌として、「学校要覧」<sup>(5,7-9)</sup>、「学校案内」<sup>(1)</sup>、「研究紀要」<sup>(5,8)</sup>、「年報」<sup>(8,9)</sup>、「図書館だより」<sup>(2)</sup>、「香川高専だより」<sup>(2)</sup>を掲載し、情報を更新、また「ガールズノート」<sup>(1)</sup>を追加
- ・WebオープンキャンパスをHPトップの上部に設置し、効果的な入試広報

HP掲載	共通	高松	詫間	合計
お知らせ	19(14)	25(27)	17(9)	61(50)
トピックス	33(20)	84(78)	70(42)	187(140)

12月末現在、( )R4年度同時期

## ○ソーシャルメディアの活用 (拡散性に優れた情報発信、若者層(Instagram)・中高年層(Facebook)・全年齢層(YouTube)への情報発信)

- ・「ソーシャルメディア運用ポリシー」を策定  
既に運用のFacebookに加え、新たにInstagramを公式アカウントとして運用し、入試広報の情報発信、今後YouTubeを公開予定

## ○法被と幟、懸垂幕 (香川高専のPR、学生生活の充実と自校への誇り、在校生・教職員・来校者への情報発信)

- ・香川高専の法被と幟を作成(これまでは各キャンパスのみ)し、広報活動に利用
- ・懸垂幕(全国高専大会男子バスケットボール部優勝2連覇達成(高松)、全国プロコン最優秀賞・文部科学大臣賞受賞(詫間))設置



## ○今後の計画 (香川高専の魅力発信、幅広い層への知名度向上)

- ・ことடன்広告、商業施設でのイベント出展、プロモーションビデオ作成等の広報活動、HPのリニューアルを検討

# 高専発！「Society 5.0型未来技術人財」育成事業

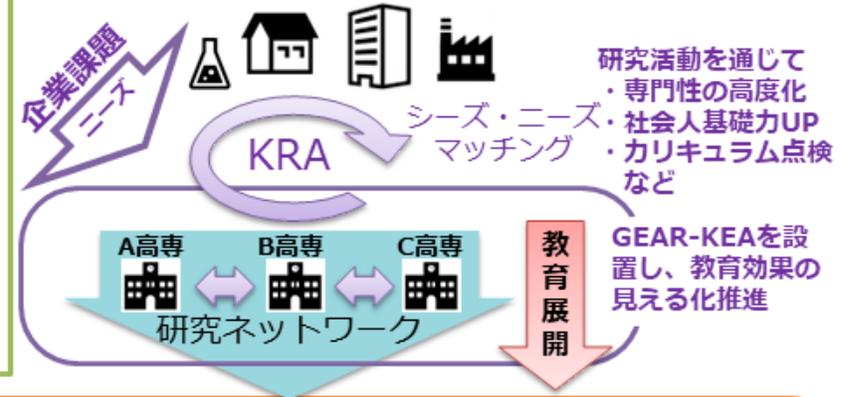
## GEAR 5.0

### KOSEN GEAR5.0 5分野6拠点



- <実施事項>**
- 学生参画による地域・企業の課題・解決の社会実装型研究
  - 高専連携型研究
  - 人事交流による集中型研究
- <得られること>**
- 研究成果（学生の成長・全国の地域創生）
  - 研究ネットワーク（高専の研究力）
  - 分野別の社会ニーズ（教育への展開）

企業シーズと地域課題を組み合わせることで解決し製品化へ



Society5.0により実現する未来技術の時代をリードする、高専発！の未来技術人財育成モデルを開発・展開

主体的で生涯学び続ける学生を継続的に育成するために・・・

GEARとCOMPASSを通じてカリキュラム点検（教育内容・方法）

⇒教育実践⇒教育の質保証へ

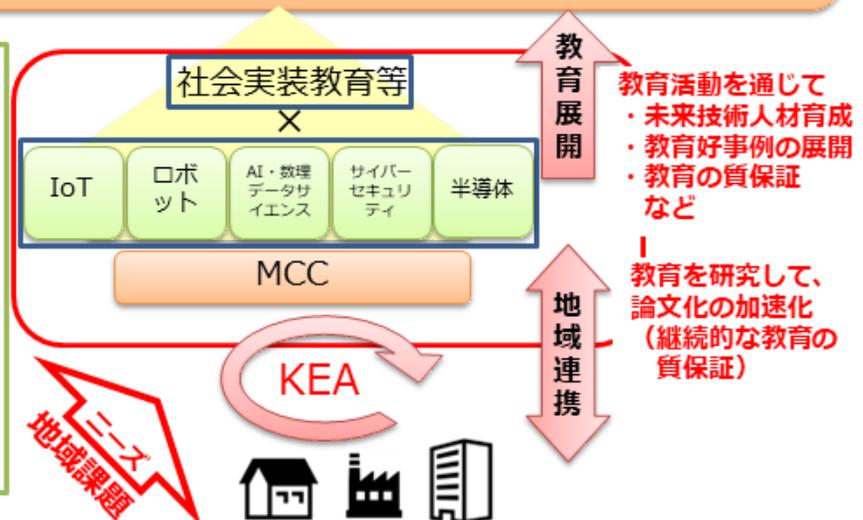
KRAとKEAの連携が大事

## COMPASS 5.0

### KOSEN COMPASS5.0 5分野10拠点



- <実施事項>**
- 到達目標の策定
  - 教材開発
  - 教育実践
  - 高専への展開
- <得られること>**
- 未来技術をリードする高専生
  - 社会ニーズに沿った教育の高度化（教育内容・方法、地域との連携教育）
  - MCCのUPDATE



# 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業

高専をスタートアップの教育拠点として、高専間で連携を図り、各地域から「ものづくり」×「AI」×「課題解決」によるイノベーションを推進

**全国56高専**  
「高い技術力」  
「社会貢献へのモチベーション」  
「自由な発想力」



**文部科学省（課題）**  
日本の経済成長を促し、  
社会的な課題にアプローチし  
解決するためのスタートアップ育成

## 香川高専「AIとものづくりを通じたスタートアップ起業家育成」

事業総額：1.35億円

### 両キャンパスに起業家工房設置



自由な発想でプロダクト開発するなどの、実践的な活動にチャレンジできる環境を整備

**起業家工房**  
2024.1.15  
オープン！

### ★導入機器

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| （高松キャンパス）         | （詫間キャンパス）      |
| ・3Dプリンタ           | ・3Dプリンタ        |
| ・レーザー加工機          | ・小型旋盤          |
| ・3Dモデリングマシン       | ・超小型フライス盤      |
| ・3Dレーザーキャナ        | ・ヘッドマウントディスプレイ |
| ・ハンドリング用ロボットアーム 等 | ・プログラム開発用PC 等  |

### 事業推進のため様々な取組を実施

#### AI教育

- AIサマースクールの実施
- 東京大学松尾研究室と連携したビジネス講座・起業講座
- 台湾国立成功大学との連携授業

#### アントレプレナーシップ教育

- アントレプレナーシップ教育講座を夏季集中講義で実施
- キャリア・スタートアップセミナー（学生向け）  
ブランディングセミナー（教職員向け）の実施

#### 卒業生との交流

- 卒業生起業家を招いた講演会の実施
- 企業技術者による研究指導、交流の実施

#### 各種コンテストへの参加推進

- ロボコン ●プロコン ●DCON など

#### 香川高専支援基金

- 新たに「スタートアップ教育支援事業」を設置
- 起業家工房の運営、AI教育、アントレプレナーシップ教育のより一層の充実を目指す

### 起業家マインド を持った学生の育成

自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく資質を身に付けることを目指す  
目標を達成するために何が必要かを計画し実践する力は、将来起業するかどうかに関わらず、各企業の新プロジェクト立ち上げ時などビジネスを興す際に必要な力であり、これからの産業界に必要な人財育成に貢献

### 香川高専発ベンチャー の起業を促進

これまでに香川高専在学中（起業当時）の学生が3社を起業

- 【1社目】Panda株式会社 2019年12月設立
- 【2社目】株式会社三豊AI開発 2020年8月設立
- 【3社目】株式会社D-yorozu 2023年1月設立

# (専攻科) 香川大学との連携教育プログラム

## 特徴

- ・香川高専イノベーション創造型連携教育プログラム  
専攻科、香川大学創造工学部双方に在籍  
香川大学より学位授与

## ・入学実績

機械工学科から機械システムコースへ  
R3年度2名入学(R4年度卒業)  
1名は大学院に進学、もう1名は企業に就職

## ・プログラムの改善

相互読替科目を見直し、電気系科目を増やして電気情報工学科からの入学生が履修しやすくなるよう改善 → 電気情報工学科から情報通信コースへ R6年度2名入学予定

## ・編入学との違い

選考段階で指導教員を選択できるプログラムとしているため、継続的な卒業研究が担保されることや、香川高専の教員も研究指導にあたるため、本科5年で取り組んだ研究テーマを発展させて継続した研究環境を実現することが最大の特徴である。



# (専攻科) 企業との連携によるPBL型授業の取り組み

## ・目的

企業と連携して教材を開発して、PBL (Project Based Learning) 型授業による問題解決や試作を通じて、技術者としての素養を習得する。

## ・内容

専攻科創造工学専攻1年の工学実験・実習Ⅱ (電気情報工学コース)において、(株)レクザムに協力して頂き、教材を開発して実践的な課題解決を目指すPBL型授業を実施している。企業技術者による実験指導を通じて、技術を修得できる機会を設けている。

グループごとに課題解決から試作まで取り組み、その成果を企業技術者の前で実演・成果発表している。

## ・成果

学生からは、企業技術者の視点や考え方を知ることができ、非常に良かったとの感想が得られている。次年度以降も継続して実施する予定である。



# 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(1)

- 文系・理系の区別にとらわれない, **新しいリテラシー**
- デジタル社会の基礎知識: 読み書きそろばんの素養

文部科学省

数理・データサイエンス・AI教育プログラム制度

**リテラシーレベル** 令和4年8月 に認定されました。

- 令和6年3月に全7学科の3年生(293人)が本プログラムを修了予定です。



## 香川高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

香川高専では、全学生を対象とした数理・データサイエンス・AI教育プログラムを2020年度から提供しています。

### 実施体制

委員会等	役割
校長	運営責任者
教務委員会	プログラムの改善・進化
外部評価委員会	プログラムの自己点検・評価

### 身につけられる能力

今後のデジタル社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を身につけ、その知識とスキルを自身の専門分野等において活用できる。

### 本プログラムを構成する科目 (必修科目)

学科	高松キャンパス		詫間キャンパス	
	機械工学科 機械電子工学科	電気情報工学科 建設環境工学科	情報ネットワーク工学科 情報工学科	電子システム工学科
1年	工学リテラシー (2)			
2年	社会II (2)		社会II (2)	情報処理I (2)
3年	応用数学I (2)		確率統計 (2)	情報処理II (2)

### 修了要件

本プログラムを構成する科目をすべて修得していること。

# 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(2)

【応用基礎レベル】 数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成

## <3つの基本的要素と、モデルカリキュラムの対応箇所>

項目	3つの基本的要素	モデルコアカリキュラム対応箇所
I	データ表現とアルゴリズム: データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6. 数学基礎 1-7. アルゴリズム 2-2. データ表現 2-7. プログラミング基礎
II	AI・データサイエンス基礎: AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス 1-2. 分析設計 2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング 3-1. AIの歴史と応用分野 3-2. AIと社会 3-3. 機械学習の基礎と展望 3-4. 深層学習の基礎と展望 3-9. AIの構築と運用
III	AI・データサイエンス実践: 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	項目I及びII AI・データサイエンス実践(演習や課題解決型学習)<データ・AI活用 企画・実施・評価>

◆ 令和5年8月時点での全大学等における認定件数  
応用基礎レベル 認定147件

そのうちの**高等専門学校の認定件数**

- ① 大学等单位:4件 …学校単位
- ② 学部・学科単位:6件 …学科単位

(応用基礎レベルは学部・学科単位での申請が可能)

## 香川高専における準備状況

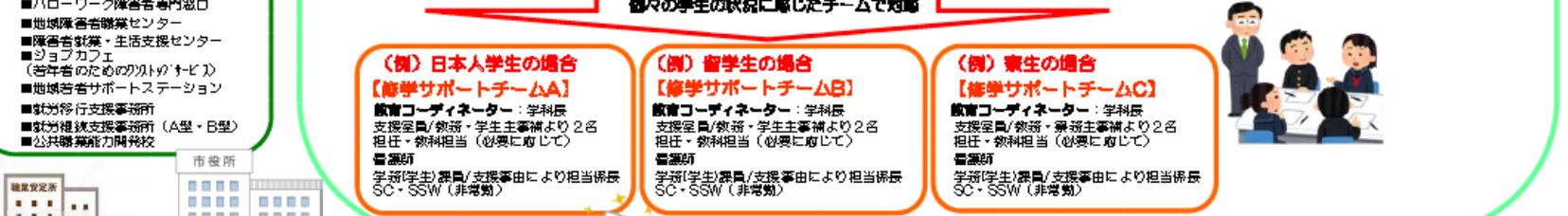
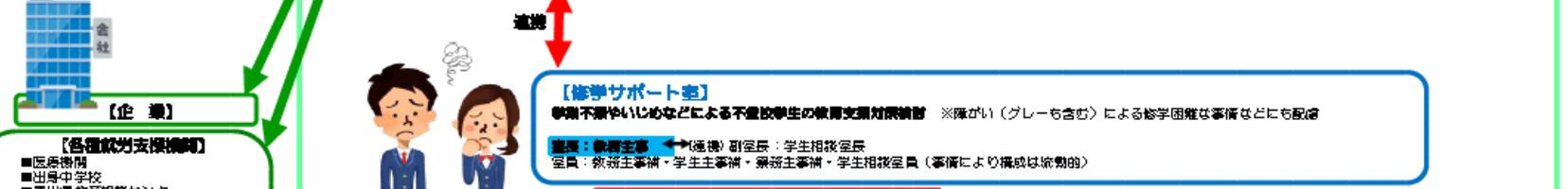
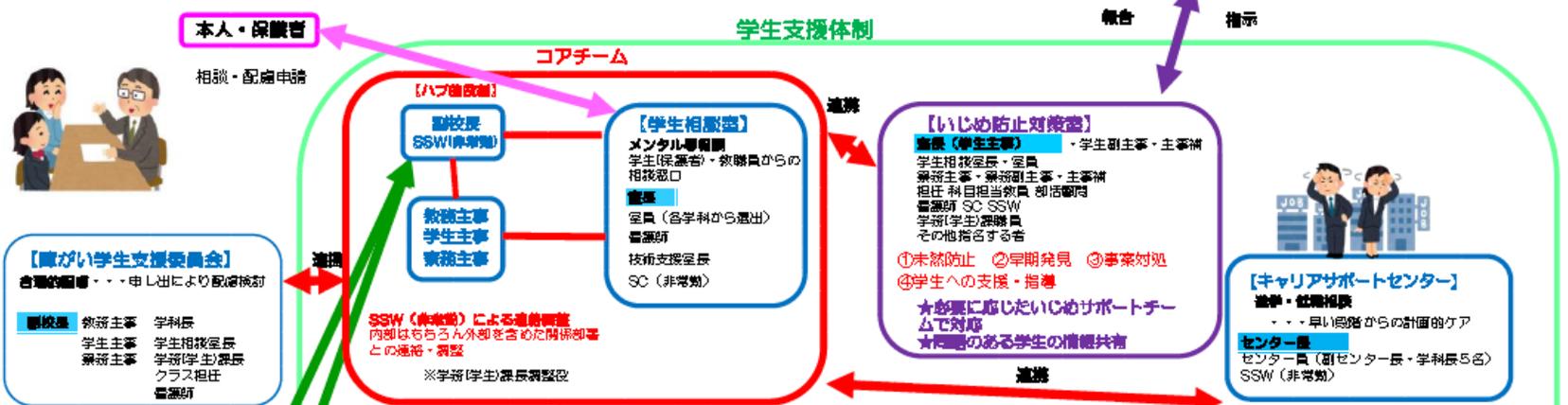
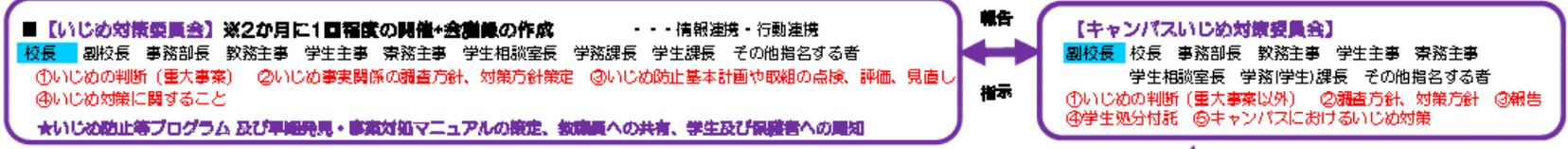
- 応用基礎レベルは、既存科目を組み合わせてプログラムを構成できる。また、リテラシーレベルの科目をベースに科目を追加することも可能である。
- 一部学科において令和7年度申請に向けて準備を進めている。

# 学生指導支援 チーム香川高専のイメージ図

香川高等専門学校学生支援体制  
 - 特定の教職員任せにならないチーム  
 による組織的な対応の体制 -

相談機能の強化

- SC (スクールカウンセラー)
- SSW (スクールソーシャルワーカー)
- 精神科医

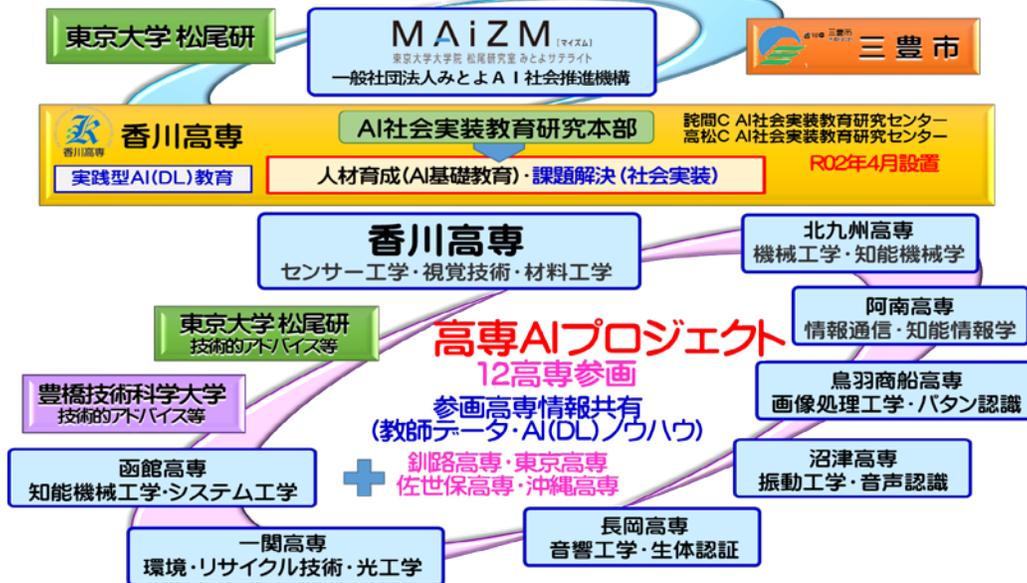


# 本校の活動状況

- AI社会実装教育研究本部
- 社会基盤メンテナンス教育センター
- 大学及び自治体との連携活動
- 地域との連携
- グローバル化への対応
- その他概要
- 研究活動等

# 活動状況 -AI社会実装教育研究本部-

## AI社会実装教育



### ●MAiZM支援による起業

- 令和元年12月・AI関連学生ベンチャー(Panda(株))起業(第1号)
- 令和2年8月・学生ベンチャー((株)三豊AI開発)起業
- 令和3年1月・学生ベンチャー((株)D-yorozu)起業

### ●AIサマースクール(H30年度～)

- 令和3年9月 第4回実施、全国高専に配信  
香川高専学生35名、教職員10名、その他高専学生教職員等73名 合計118名
- 令和4年9月 第5回実施、全国高専に配信  
香川高専学生44名、教職員5名、その他高専学生教職員等82名 合計131名
- 令和5年8月 第6回実施(高専スタートアップ教育環境整備事業)  
香川高専学生28名、教職員8名、その他高専学生教職員等92名 合計130名

### ●AIによる国際連携教育(R03年度～)

- 令和3年3月:台湾国立成功大学(台南)(NCKU)とMOU「AIに関する連携協定」締結  
画像認識AIとロボティクスに関する初心者向けのオンライン授業
- 令和3年・試行的に連携講義実施
- 令和4年10月から令和5年1月(30時間)・AI特化コース単位化(1単位)
  - Part1: PyTorchを使った画像認識AIの実装(国立成功大学)
  - Part2: 画像認識AIとJetBotを使ったロボット制御(香川高専)
- 受講人数:香川高専 学生5名、国立成功大学 学生25名  
対面交流実施(令和4年12月)・国立成功大学
- 令和5年9月から令和6年1月・AI特化コース単位化(1単位)  
受講者数:香川高専 学生4名、国立成功大学 学生40名  
対面交流実施(令和4年12月)・国立成功大学、南台科技大学、国立清華大学

### ●高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業(R04年度)

AIとものづくりを通じたスタートアップ起業家育成(R04年度～)

# 活動状況 - 社会基盤メンテナンス教育センター -

**【目的】**社会で活躍する建設技術者に対して、さらに橋梁メンテナンスの知識や技術を身につけてもらうリカレント教育を実施する。

## 橋梁点検(基礎編)e+iMec講習会の実施

eラーニングの事前学習と高専での体験型の対面講習会を合わせた“e+iMec講習会”は各回の受講人数を10名とし、少人数で密度の濃い学修ができる環境を整えている。受講生アンケートからも満足度の高い評価を得た。

年度	講座	回数(回)	受講者(人)	合格者(人)	合格率(%)
令和3	基礎編	1	8	6	75
令和4	基礎編	5	51	30	60
令和5	基礎編	4	32	19	58
令和5	応用編	1	9	—	—

※1 講習会受講者数と試験受験者数は一致しない  
 ※2 合格者は再試験を含み集計時点の数(今後増加可能性有)

- 【橋梁点検(基礎編)講座】** 対面2日間: 有料(44,000円)  
 橋梁担当の技術公務員、橋梁点検の経験が浅い民間土木技術者向けの内容。令和3年度試行、令和4年度から有料。合格者には高専機構認定「**准橋梁点検技術者**」の資格付与。
- 【橋梁点検(応用編)講座】** 対面3日間: 有料(60,000円)  
 実際に橋梁点検を主担当で行う土木技術者向けの内容。基礎編の上位講習会。令和6年3月に第1回目を実施予定。合格者には高専機構認定「**橋梁点検技術者**」(国土交通省民間技術資格に認定済→点検業務を実施可能)の資格付与。

## 自立運営に向けた取り組み

令和5年度末で助成事業終了後の自立運営のために、**一般財団法人 高専インフラメンテナンス人材育成推進機構**を令和5年6月に設立。リカレント教育を推進する5高専(舞鶴(主幹)・福島・長岡・福井・香川高専)と共に、賛同する全国の産官学団体で連携体制を構築し事業の継続性を担保。

<https://www.maizuru-ct.ac.jp/kosen-reim/>



学内実習フィールドでの講習



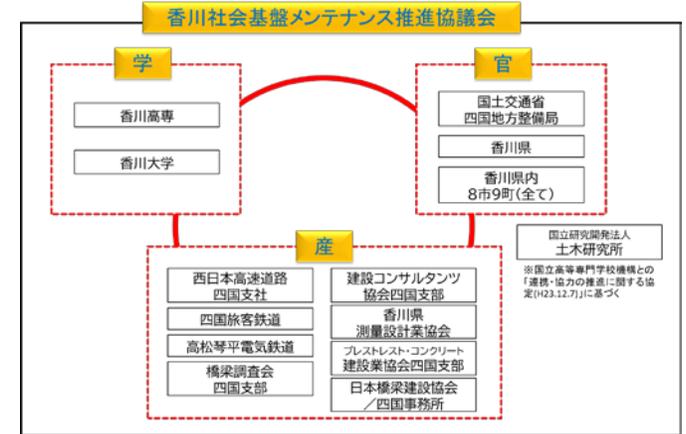
実橋梁での点検講習



非破壊試験装置体験

## 地元香川での産官学連携体制の構築

地元のニーズを採り入れた運営・技術情報交換を実施。



## 報道

日付	メディア	内容
2022.4.6	日本経済新聞	香川高専 橋梁点検技術者育成へ講習会 老朽化対策に
2022.11.17	日本経済新聞	香川高専 本物の橋梁で非破壊検査を実演 技術者育成で
2022.10.27	瀬戸内海放送	香川高専 橋梁点検非破壊検査見学会開催
2023.5.24	西日本放送	香川高専 橋の老朽化への対応学ぶ 高松市で講習会
2023.9.12	NHK 高松放送局	ゆう6かがわ 担い手不足どう乗り切る「橋梁点検講習会」
2023.11.7	NHK 高松放送局	「橋の点検ができない!? 技術者不足にリスクリングとAIで挑む」 <a href="https://www.nhk.or.jp/takamatsu/lreport/article/000/92/">https://www.nhk.or.jp/takamatsu/lreport/article/000/92/</a>

# 活動状況 - 大学及び自治体との連携活動 -

## ○大学・地域共創プラットフォーム香川

- ・高大連携による県内高校からの進学推進
- ・県内大学等在学生の地域理解・定着意欲換気
- ・卒業生の地域就職推進に向けたキャリア支援
- ・地域活性化に係る事業策定のための提案収集
- ・情報共有及び外部への情報発信のためのデジタル環境の整備

令和5年12月17日に学生同士の国際交流を目的とした「国際交流会in中野うどん学校高松校」を実施し、県内大学等に所属する留学生と日本人学生が交流を行った。

### (県内大学等)

香川大学, 香川県立保健医療大学, 四国学院大学, 徳島文理大学, 高松大学, 香川短期大学, 高松短期大学, せとうち観光専門職短期大学, 香川高等専門学校

### (経済団体等)

香川県商工会議所連合会, 香川県商工会連合会, 香川県中小企業団体中央会, 香川経済同友会, 香川県中小企業家同友会, 香川県農業協同組合中央会, 香川県漁業協同組合連合会, 香川県銀行協会

### (行政機関)

高松市, 丸亀市, 坂出市, 善通寺市, 観音寺市, さぬき市, 東かがわ市, 三豊市, 土庄町, 小豆島町, 三木町, 直島町, 宇多津町, 綾川町, 琴平町, 多度津町, まんのう町, 香川県

## ○高松市との連携事業

- ・高松市こども未来館科学体験教室開催業務委託(H27~)
- ・スマートシティたかまつ推進協議会への参加(H29~)
- ・平成29年12月22日に高松市と香川高専と(株)ミトラとの連携協力に関する協定書締結(高齢者等見守り機器開発、情報通信技術(ICT)を活用した地域包括ケアシステムの構築推進)
- ・令和2年12月18日に高松市と一般社団法人みとよAI社会推進機構(MAiZM)と香川高等専門学校との(1)行政サービスの向上、地域課題の解決に向けた連携、(2)人材育成に関する連携のための合意書の締結

## ○三豊市との連携事業

- ・受託研究「三豊市・香川高等専門学校連携事業」  
理科離れ対策, 魅力ある地域づくり
- ・平成30年8月20日三豊市と東京大学大学院松尾研究室と香川高等専門学校との人工知能(AI)技術による地域活性化のための連携協力に関する合意書の締結(東京大学松尾研究室講師による学生を対象としたサマースクールの開催)

共助のまちづくりの実現に向けて、公共データ等を効果的に運用することを目的としたコンソーシアムを準備中

## ○香川大学との連携事業

- ・香川大学と香川高等専門学校との間における相互単位互換に関する協定
- ・令和5年度 大学等との技術開発懇談会(令和5年11月9日開催)

# 活動状況 -地域との連携-

## ○体験教室

### 【高松市との連携事業】

- サイエンス教室
- ロボットの実演とミニロボ`操縦体験
- 4コマまんがにチャレンジ！
- プラネタリウムを作ろう
- プログラムでロボットを動かそう！
- 土木わくわく教室
- ソーラーカーの仕組みについて知ろう！
- 香東川ストラテジー
- NHKロボコン用ロボットの実演とミニロボ操縦体験

## ○公開講座開催

- プラスチックの性質を調べよう 対象:中学生
- パグの絵が動いて見えるおもちゃを作って電気の世界を学ぼう 対象:小5~中学生
- 塩ビ管で水でつぼうを作って流体について学ぼう 対象:小4~中学生
- 因数分解を極めよう！ 対象:中3
- これからの「英語」の話をしよう 対象:小5~中3、保護者
- 夏休み寺子屋;身近な土木ぼうさい×STEAM 対象:中学生、小学生
- やってみよう！硬式野球 対象:小学校高学年
- スイム記録会&スタート練習会in三豊 対象:一般・小中学生
- 中学生のための高専数学講座 対象:中3
- ゲームプログラミング教室 対象:中学生

## ○国際交流関係の連携事業

- 外国人によるスピーチコンテスト(香川県留学生等国際交流連絡協議会)
- 「防災・防犯教室」(仏生山国際交流会)
- 多文化交流会(三豊市社会福祉協議会)

(赤文字:小中学生対象、緑文字:小中学生・一般対象、黒文字:一般対象)

### 【三豊市との連携事業】

- 簡単ロボット教室
- ロボット教室
- 発明くふう展作品づくり
- チャレコン作品づくり
- 三豊市少年少女発明クラブチャレンジ創造コンテスト
- 発明工作教室
- おもしろ科学実験教室
- プログラミング教室
- からくり教室
- ロボコン基礎

- 永久循環する反動力滑り台の製作 対象:小中学生
- 分光器と光の3原色ライトをつくろう 対象:小中学生
- 脳波信号処理プログラミングセミナー 対象:一般、中学生
- 組込み技術セミナー(リーダーコース) 対象:一般
- 有限要素法解析入門 対象:一般
- PyTorchによるDeep Learning入門 対象:一般
- 組込み×AWS開発講座 対象:一般
- GEO×スタートアップ講習会①地盤の強さと環境の評価コース 対象:一般
- GEO×スタートアップ講習会②原位置透水試験の開発と展望コース 対象:一般
- AIがわかるJetBot講座 対象:一般

## ○その他

- 徳島・香川「トモニマルシェ」への参加
- たかまつ認知症フェアへの講師派遣
- ほっとはうす萩(観音寺市)のおぼけ屋敷制作
- 仁尾八朔人形まつりの八朔人形展示協力

# 活動状況 -グローバル化への対応-

**OMOU締結校 13大学**(大韓民国 東洋未来大学校, ベトナム社会主義共和国 ダナン工科大学, 台湾 正修科技大学, 大韓民国 ソウル大学工学部, マレーシア マラ工科大学, ニュージーランド クライストチャーチポリテク大学, フランス共和国 カーン大学, タイ王国 ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校, タイ王国 泰日工業大学, フランス共和国 トゥール大学, マレーシア マレーシア科学大学, 中華人民共和国 大連東軟信息学院, 台湾 国立成功大学)

## ○協定校との活動実績の状況 (R05年度)

### 1. 海外協定校への学生派遣による研究促進, 研究力の向上および海外語学研修

- 香川高専グローバル・エンジニア研修プログラム(GETプログラム) フランス・トゥール大学, 10/4~12/15 (参加学生3名)
- オンライン交流 国立成功大学と連携しAIとロボテックスに関するオンライン授業, 2023/9~2024/1 (受講学生:香川高専4名、国立成功大学40名)
- 海外語学研修
  - ・ニュージーランド Ara (クライストチャーチポリテク大学) での英語研修, 8/20~9/18 (参加学生5名)
  - ・韓国 永進専門大学英語村での英語研修 2024/3/10~3/24, (参加学生5名(予定))

### 2. 海外の大学との国際交流

- 台湾の大学(国立成功大学, 南台科技大学, 国立清華大学)との交流(合同授業, キャンパス見学等) 12/13~12/17 (参加学生4名, 教員1名)

### 3. 語学力アップのための語学演習

- ネイティブ教員によるオンライン英会話教室 全10回 (2024/3 実施予定)

### 4. 協定校との国際会議の共催

- MJIC2024 (MALAYSIA-JAPAN International Conference on Nanoscience, Nanotechnology and Nanoengineering, 2024/3/1~3/4; マレーシア)  
(発表: 学生3名, 教員1名(予定))

### 5. 国際会議、国際交流行事

- 第6回 NIT-NUU日台国際カンファレンス(愛媛県松山市) 7/21~7/22 (発表: 学生5名, 教員3名)

## ○国際寮 (R05年度)

- 国際寮披露式および内覧会を実施(4/7) TVメディア(RSK山陽放送)にて報道、四国新聞に掲載
- 国際寮にて留学生3名を含めたシェアハウス生活が開始(6月下旬)
- 学術交流協定校トゥール大学(フランス)の先生に国際寮の見学会を実施(6/30)
- オープンキャンパス(8/19-20)にて中学生124名、保護者107名に対して国際寮の見学会を実施
- 国際寮のユニット構造を生かした冬季休業期間中の留学生・日本人混在の特別在寮を実施
- 詫間Cについても令和6年度中に、現女子寮を女子寮及びシェアハウス型の国際寮へ改修見込み



# 活動状況 その他概要

## ○情報系学科・コースの新設・拡充を検討

- ・文科省が、成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援策を創設
- ・国の施策に応じ、情報系学科・コースの新設・拡充について検討を開始
- ・新学科・コースの令和8年4月開設を目指す

## ○香川高等専門学校産業技術振興会との連携事業

- ・会員企業との共同研究に対する研究費の補助（令和5年度:5件）
- ・シーズ発表会の開催（令和5年9月8日, 6件発表）
- ・合同会社説明会の開催（令和6年2月22日開催, 企業:81社参加予定）

## ○香川銀行との連携事業

- ・デジタル人材マッチングイベント(業界説明会)の開催（令和5年2月21日, 県内企業:21社, 学生:109名参加）
- ・KNBCニュース(月刊)への教員研究シーズの掲載(年間12回)
- ・徳島・香川「トモニマルシェ」（令和5年12月2,3日）への参加

## ○かがわ産業支援財団との連携事業

- ・「新かがわ中小企業応援ファンド等事業高度産業人材育成事業」で公開講座を共催（令和5年度:6件）
- ・企業見学及び企業説明会企業先の斡旋（令和5年度:参加実績なし）
- ・「知財マッチングin かがわ」への出展協力（令和5年11月16日, シーズ情報の提供）

## ○香川高専人財バンク

- ・同窓会との連携, 卒業生の技術・技能を活用した母校の存在感を高めるための地域貢献等（特別講座1件）

# 研究活動等(参考資料)

現況



## ○科学研究費助成事業

【R5年度】

ソフトウェア開発データ特有の欠損メカニズム特定に関する研究	平成31年～令和5年
一人で操作できる文楽ロボットの開発	平成31年～令和5年
豪雨および地震に対する老朽化した土構造物の高耐久化補強技術の開発	令和2年～令和5年
浅海域の貧栄養化解消を目的とした海底耕耘の定量的効果検証	令和2年～令和5年
CIMと交通事故特性からみた子どものモビリティのあり方の検討	令和2年～令和5年
けい酸塩系表面含浸材の汎用的利用に向けた実験的検討	令和2年～令和5年
超小型衛星の学士課程教育への適用とその評価法開発に関する包括的研究	令和2年～令和5年
戦時言論統制下における小説表現の創出についての研究—太宰治を中心に—	令和2年～令和5年
遡上津波波圧による沿岸域構造物群の破壊過程に関する研究	令和3年～令和5年
Blockchainと分散学習による群ロボットの高信頼型協調動作に関する研究	令和3年～令和5年
表現のモジュライとその周辺 (4)	令和2年～令和5年
熱に不安定なCo化合物の緻密化を可能にするHHP焼結技術の確立と熱電材料への応用	令和2年～令和5年
自律走行車いすをより自由に制御できるBMI操作画面に関する研究	令和3年～令和5年
大規模なテンソル和の任意の特異値計算	令和3年～令和5年
漢文資料を通じて見る『般若灯論』の成立と伝承—漢訳のテキスト校訂と再評価の試み—	令和3年～令和7年
独立性と振幅位相モデルに基づく音源分離の数理的深化及びマルチモーダル補聴器開発	令和4年～令和7年
皮膚に触れない付爪型ウェアラブルセンサ：連続血圧計測を実現する基盤技術の構築	令和4年～令和6年
高校生から始める汎用衛星モデルによる実践的衛星開発カリキュラム実現に向けた研究	令和4年～令和7年
分子動力学による多体量子トンネル現象と天体核融合反応への新しいアプローチ	令和4年～令和7年
ペア風車とトリオ風車の相互作用を活用した小形垂直軸風車クラスターの最適配置の探求	令和4年～令和7年
大気圧低温プラズマを用いたポリマーブレンド膜表面へのダブルラフネス構造の形成	令和4年～令和6年
熟練技能伝承を目的とした技能データの圧縮化とスマート加工システムへの応用	令和4年～令和6年
サケ・マス類が利用可能な可搬魚道システムの開発	令和4年～令和6年
過疎化・高齢化に対応した指定避難所のあり方評価	令和4年～令和6年
理科室で構築したナノテクプラットフォームで実現する半導体デバイスファウンドリ	令和4年～令和6年

有機半導体を用いた放射線方向検知センサの開発	令和4年～令和6年
気づきの機会を創出するインタビュー対話システムの研究	令和4年～令和6年
天体での核融合反応率の微視的原子核模型による評価	令和4年～令和7年
高専外国人留学生の適応実態調査及び修学サポート教育プログラム構築に関する実証研究	令和4年～令和6年
工学系数学のデータ駆動型教育によるディープ・アクティブラーニング型授業設計の開発	令和4年～令和8年
パルスアーク放電を用いたITO透明導電性基板のリサイクル方法に関する基礎研究	令和4年～令和6年
微小・狭窄領域へアクセス可能な集積化シリコン感覚毛による質感の知覚と認識	令和5年～令和8年
近世怪異文芸を中核とした通俗思想の基礎的研究	令和5年～令和8年
禁制線/共鳴線強度比とX線光学素子を用いた新手法による放射線捕獲の定量的評価	令和5年～令和7年
二点弁別能を上回る空間解像力で多様な"触れ方"へ応じる触覚ディスプレイの開発	令和5年～令和7年
資源循環型人工地盤材料の開発と地盤防災対策への適用	令和5年～令和8年
子供の移動自由性と安全性の両立を考慮した評価方法の開発	令和5年～令和7年
酸化還元活性を有するイオン液体を用いた温度差電池による熱電変換	令和5年～令和7年
p-コンパクト群の同変シューベルト・カルキュラス	令和5年～令和7年
地方鉄道の存廃の判断基準と意思決定方策の開発	令和5年～令和8年
超小型衛星内部のワイヤーハーネス削減のための超小型衛星向け光無線バスの試作と評価	令和5年～令和7年
非日常感によって片づけに対する行動変容を促す写真展の開催	令和5年
幼稚園児～小学生低学年のための色彩・音感教材の開発	令和5年
Minecraftの視覚的要素を生かした放射性壊変学習の新たな体感型ツール開発	令和5年
根尖性歯周炎治療のための500kHz電流照射に関する最適な通電条件の検討	令和5年

受入総額 43,156,000円

# 研究活動等(参考資料)

現況



## ○共同研究

堆積岩の特性と地層内バイオメタン生産技術開発に関する研究	平成30年7月
高機能鉛蓄電池の開発	令和元年9月
被覆配線など廃プラスチックの処理技術の開発	令和2年4月
サイバーセキュリティ対策のための研究開発及び情報共有	令和3年4月
サイフォン式小規模ため池の利水・減災(水位低下)簡易装置の開発	令和3年8月
砂絵造型システム開発	令和3年11月
フッ素処理技術に関する研究	令和3年12月
地域共創型スマートな移動手段(スマートモビリティ)への転換に関する研究	令和4年3月
920MHz帯RFIDアンテナの開発	令和4年4月
廃水溶性加工油のDHS法を用いたメタン発酵実験	令和4年7月
AIを使用したアナログデータの数値化	令和4年11月
F B Gのセンサ応用に関する研究	令和5年4月
火力発電所による画像分類アルゴリズムによる異常検知に関する研究	令和5年4月
無線式モニタリングシステムに関する研究	令和5年4月
摩擦攪拌接合(FSW)による薄板SUS304材の線接合	令和5年5月
空間情報を活用した混合音解析・分解技術	令和5年6月
半凝固スラリー生成装置高効率化	令和5年7月
子供の移動自由性を評価するための数理統計モデルの改良	令和5年7月
瀬戸内圏域海上交通のピーク需要に連動した海上タクシー配船システムに関する研究	令和5年7月
可動部用ケーブルの導体・シールド寿命予測の研究	令和5年8月
微小な身体運動を含む日常生活動作のセンシングによる要介護リスク評価システムの研究開発	令和5年8月
AIを用いたシュートフォーム改善のシステムの構築	令和5年8月
ため池の損傷による下流域への影響評価のための解析的施行に関する研究	令和5年8月
コンクリート構造物の表層品質評価手法に関わる研究	令和5年9月
フッ素添加剤によるポリマー表面の濡れ性の制御技術の開発	令和5年9月

## 【R5年度】

被覆配線など廃プラスチックの処理技術の開発	令和5年10月
成層圏気球サーフェイスに対する印刷技術を利用したアクティブフェーズドアレイアンテナの開発	令和5年10月
複数のマイクアレイを用いたスポットフォーミングによる音声強調	令和5年11月
AIを使用した交通整理システムの開発	令和5年11月

受入総額 7,379,000円

## ○受託研究

三豊市・香川高等専門学校連携事業	令和5年4月
サケ・カラフトマスの移動環境構築を目的とした可搬魚道の設置試験	令和5年4月
IoT・AIを用いた貧酸素水塊検出・赤潮予測による養殖業の生産性向上及び高収益魚種シフトによる安定収益化の実現	令和5年10月
革新的衛星技術実証実験向けキューブサット試験データ取得及び技術評価	令和5年3月

受入総額 5,658,400円

## ○その他競争的資金・助成金

H2/O2混合ガスを用いた環境に優しいポリマー分解技術のケミカルリサイクルへの応用	令和3年11月
ポータブル魚道による希少淡水魚アユモドキの遡上環境構築	令和4年4月
施設園芸における高収益栽培体系を実現するための技術開発	令和4年4月
機械学習を用いた漏洩磁束法によるコンクリート中の鋼材破断検知手法の開発	令和4年6月
遠隔勤務者のストレス高精度早期検出のためのマルチモーダル感情推定技術の開発	令和4年10月
PWMインバータの制御遅れを考慮した離散状態フィードバックに基づくACサーボシステムの広帯域化	令和4年12月
墜落制止器具をパワーアシストロボット化するためのベルト部分後付け型人工筋の開発	令和5年3月

受入総額 1,862,000円

# 研究活動等(参考資料)

現況



## ○科学研究費助成事業

【R4年度】

開発途上国における水・廃棄物問題改善のための包括的都市衛生政策の構築	平成29年～令和4年
ベトナムの農業水利施設へのストックマネジメント導入の可能性について	平成30年～令和4年
Web授業受講者を評価するアフェクティブモニタシステムの開発	平成30年～令和4年
スモールデータ機械学習理論に基づく音響拡張現実感及び音コミュニケーション能力拡張	平成31年～令和4年
水素ラジカルによるポリマー材料の分解・除去における酸素微量添加効果の解明	平成31年～令和4年
希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究	平成31年～令和4年
一人で操作できる文楽ロボットの開発	平成31年～令和4年
生物・凝集処理を同時に行う染料廃水の省エネ・ゼロエミッション型廃水処理装置の開発	平成31年～令和4年
ソフトウェア開発データ特有の欠損メカニズム特定に関する研究	平成31年～令和5年
豪雨および地震に対する老朽化した土建造物の高耐久化補強技術の開発	令和2年～令和4年
高生産性と安全性を両立したフレキシブル生産システムのための人協働ロボットの開発	令和2年～令和4年
中小都市における検索履歴データを用いた動学的バス需要予測手法の開発	令和2年～令和4年
戦時言論統制下における小説表現の創出についての研究ー太宰治を中心にー	令和2年～令和4年
浅海域の貧栄養化解消を目的とした海底耕耘の定量的効果検証	令和2年～令和5年
CIMと交通事故特性からみた子どものモビリティのあり方の検討	令和2年～令和5年
けい酸塩系表面含浸材の汎用的利用に向けた実験的検討	令和2年～令和5年
超小型衛星の学士課程教育への適用とその評価法開発に関する包括的研究	令和2年～令和5年
表現のモジュライとその周辺（4）	令和2年～令和5年
熱に不安定なCo化合物の緻密化を可能にするHHP焼結技術の確立と熱電材料への応用	令和2年～令和5年
モンジュ・アンペール方程式の概複素幾何への一般化と新たな応用可能性の開拓	令和3年～令和4年
鉗子把持状態の“良悪”を識別する生体適合型構造色式センサの開発	令和3年～令和4年
遡上津波波圧による沿岸域構造物群の破壊過程に関する研究	令和3年～令和5年
Blockchainと分散学習による群ロボットの高信頼型協調動作に関する研究	令和3年～令和5年
自律走行車いすをより自由に制御できるBMI操作画面に関する研究	令和3年～令和5年
大規模なテンソル和の任意の特異値計算	令和3年～令和5年
漢文資料を通じて見る『般若灯論』の成立と伝承ー漢訳のテキスト校訂と再評価の試みー	令和3年～令和7年
皮膚に触れない付け爪型ウェアラブルセンサ：連続血圧計測を実現する基盤技術の構築	令和4年～令和6年
大気圧低温プラズマを用いたポリマーブレンド膜表面へのダブルラフネス構造の形成	令和4年～令和6年

熟練技能伝承を目的とした技能データの圧縮化とスマート加工システムへの応用	令和4年～令和6年
サケ・マス類が利用可能な可搬魚道システムの開発	令和4年～令和6年
過疎化・高齢化に対応した指定避難所のあり方評価	令和4年～令和6年
理科室で構築したナノテクプラットフォームで実現する半導体デバイスファウンドリ	令和4年～令和6年
有機半導体を用いた放射線方向検知センサの開発	令和4年～令和6年
気づきの機会を創出するインタビュー対話システムの研究	令和4年～令和6年
高専外国人留学生の適応実態調査及び修学サポート教育プログラム構築に関する実証研究	令和4年～令和6年
パルスアーク放電を用いたITO透明導電性基板のリサイクル方法に関する基礎研究	令和4年～令和6年
独立性と振幅相モデルに基づく音源分離の数理的深化及びマルチモーダル補聴器開発	令和4年～令和7年
高校生から始める汎用衛星モデルによる実践的衛星開発カリキュラム実現に向けた研究	令和4年～令和7年
分子動力学による多体量子トンネル現象と天体核融合反応への新しいアプローチ	令和4年～令和7年
ペア風車とトリオ風車の相互作用を活用した小形垂直軸風車クラスターの最適配置の探求	令和4年～令和7年
天体での核融合反応率の微視的原子核モデルによる評価	令和4年～令和7年
工学系数学のデータ駆動型教育によるディープ・アクティブラーニング型授業設計の開発	令和4年～令和8年
ESP32マイコンを用いた学習進捗確認システムの開発	令和4年

受入総額 50,036,000円

# 研究活動等(参考資料)

現況



【R4年度】

## ○共同研究

堆積岩の特性と地層内バイオメタン生産技術開発に関する研究	平成30年7月
高機能鉛蓄電池の開発	令和1年9月
被覆配線など廃プラスチックの処理技術の開発	令和2年4月
大気圧プラズマによる微細構造の形成と撥油・撥水効果の検討	令和2年5月
サイバーセキュリティ対策のための研究開発及び情報共有	令和3年4月
サイフォン式小規模ため池の利水・減災(水位低下)簡易装置の開発	令和3年8月
NLB(New Lead Battery)の開発	令和3年10月
NLB(New Lead Battery)に適用したシステムの開発	令和3年10月
ゼオライトを用いた多自然型コンクリートブロックの研究	令和3年10月
AIを用いた各種センサの高精度化に関する研究	令和3年11月
深層学習を活用した画像処理技術に関する研究	令和3年12月
フッ素処理技術に関する研究	令和3年12月
地域共創型スマートな移動手段(スマートモビリティ)への転換に関する研究	令和4年3月
F B Gのセンサ応用に関する研究	令和4年4月
実空間演奏信号に適用可能な混合音解析・分解技術	令和4年4月
センサシステムを用いた生体信号取得技術に関する研究	令和4年4月
920MHz帯RFIDアンテナの開発	令和4年4月
可動部用ケーブルの導体・シールド寿命予測の研究	令和4年5月
火力発電所における画像分類アルゴリズムによる異常検知に関する研究	令和4年5月
無線式モニタリングシステムに関する研究	令和4年6月
廃水溶性加工油のDHS法を用いたメタン発酵実験	令和4年7月
AIを用いたバスケットボールのシュートフォーム改善のシステム構築	令和4年7月
ため池の損傷による下流域への影響評価のために必要な条件の適性に関する研究	令和4年7月
AIカメラを使った高齢者の状態検出とアバター表示に関する研究	令和4年7月
子どもの移動自由性を評価するための数理統計モデルの開発	令和4年7月
便覧準拠型と改良型によるPcaボラード基礎の衝撃力緩和性能に関する研究	令和4年7月
漏洩磁束法に関する研究	令和4年7月
AIを使用したアナログデータの数値化	令和4年11月
被覆配線など廃プラスチックの処理技術の開発	令和4年12月

受入総額 4,961,000円

## ○受託研究

三豊市・香川高等専門学校連携事業	令和4年4月
サケ・カラフトマスの移動環境構築を目的とした可搬魚道の設置試験	令和4年5月
通信困難地域でのLTE-Mを使用した通信検証	令和4年8月

受入総額 2,129,400円

## ○その他競争的資金・助成金

皮膚に触れないウェアラブルセンサ 爪の微小ひずみに基づく新たな生体計測原理に適したセンサ素子の確立	令和2年11月
最寄り鉄道駅までのアクセス性を考慮した鉄道利用実態に関する基礎的研究	令和2年11月
ため池堤防に近接した戸建て住宅のAI防災対策の可視化	令和2年11月
落差構造物に適用可能なポータブル魚道システムの開発	令和3年3月
H2/O2混合ガスを用いた環境に優しいポリマー分解技術のケミカルリサイクルへの応用	令和3年11月
任意の角度に設置可能なコンクリート表面吸水試験の実用化	令和3年12月
ポータブル魚道による希少淡水魚アユモドキの遡上環境構築	令和4年4月
施設園芸における高収益栽培体系を実現するための技術開発	令和4年4月
衝突力を受ける車止めPca基礎の動的特性に関する研究	令和4年4月
機械学習を用いた漏洩磁束法によるコンクリート中の鋼材破断検知手法の開発	令和4年6月
遠隔勤務者のストレス高精度早期検出のためのマルチモーダル感情推定技術の開発	令和4年10月
AIを用いたフレイル検出の調査研究	令和4年11月
PWMインバータの制御遅れを考慮した離散状態フィードバックに基づくACサーボシステムの広帯域化	令和4年12月

受入総額 15,235,235円

## 「令和4年度香川高等専門学校自己点検評価」の再点検について

本校の点検評価委員会において、令和4年度に自己点検を実施し、令和4年度末にその結果を公表いたしました。

本来、評価の根拠となる資料を添えて公表すべきでありましたが、資料の公表ができておりませんでした。「根拠資料」ならびにその「担当部署」を添えて再公表を行うべく確認作業をしていたところ、公表していた内容に現状と異なる点が見つかりました。

本校の企画評価室で「分析」及び「現状」についてその内容を再点検し、「再点検分析」及び「再点検結果と改善点」を含めて改めて公表いたします。

なお、すでに公表済みの「評価項目」、「評価基準」、「観点」、「分析」、「現状」ならびに追加項目の「担当部署」、「根拠資料」は令和4年度末の情報そのままであること申し添えます。

(変更箇所)

追記項目 「担当部署」「根拠資料」

【令和4年度末の点検状況を追記したもの】

「再点検分析」「再点検結果と改善点」

【令和5年11月の再点検状況を追記したもの】

令和5年11月

香川高等専門学校

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：

5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
1 教育の内部 質保証システム	1-1 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。	1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	3	学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めている。実施体制に点検評価委員会を整備し、自己点検評価委員会規程に基づき、自己点検評価実施要項に評価基準を設定している。	企画評価室 自己点検評価委員会	1-1-①-1_香川高等専門学校自己点検評価実施要項 1-1-①-2_香川高等専門学校点検評価委員会規程 1-1-①-3_香川高等専門学校企画評価室規程	1	本校のPDCAサイクルでは、Planの機能が企画評価室、Checkの機能が点検評価委員会として実施する体制として規程類が整備されている。しかし、Checkの機能である点検評価委員会が規程通りに機能しておらず、不十分な運用体制となっていた。  (改善点) Planの機能である企画評価室の規程を改定し、定期的に収集・蓄積する根拠資料やデータを総合的に管理する体制を整える。 また、Checkの機能である点検評価委員会は、その責任者を企画評価室とは分けるように規程を改定し、本来の点検評価の機能を担う体制とする。点検評価委員会と企画評価室との役割分担を明確にすることで、本来のPDCAサイクルを実効的に運用する。
		1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	2	根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積している。 点検評価はHPにて公表しているが、3から4年ごとには実施できていない。		1-1-②-1_自己点検評価実施依頼文書 1-1-②-2_別紙1_令和4年度自己点検評価担当部門 1-1-②-3_JABEE・認証評価・自己評価_Webページ	1	根拠となるデータや資料は、各部署において定期的に蓄積していることを確認できている。しかし、規程通りに運用できる体制にはなかったため、改めて確認したところ、自己点検評価が不十分のまま公表をしていた。また、本来3~4年ごとに自己点検評価を実施することと定められていたが、要項通りに実施できていなかった。  自己点検の評価項目に対する根拠資料を総合的に管理する部署が明確に定められていなかった。また、点検評価委員会が実質機能しておらず、本来、計画の機能を担当する企画評価室がその役割も担った形となってしまうことで、PDCAサイクルは回っているものの、本来の形とはなっていないのが原因である。  (改善点) 企画評価室の規程を改定し、定期的に収集・蓄積する根拠資料やデータを総合的に管理する体制を整える。 また、点検評価委員会は、その責任者を企画評価室とは分けるように規程を改定し、本来の点検評価の機能を担う体制とする。点検評価委員会と企画評価室との役割分担を明確にすることで、本来のPDCAサイクルを実効的に運用できるものとする。
		1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	3	自己点検・評価の実施に際して、学校の構成員及び学外関係者の意見を反映するようになっている。在学生と卒業生（修了生）からの意見聴取及び外部有識者の検証を踏まえている。		1-1-③-1_香川高専意見箱（教職員）（非公表） 1-1-③-2_学生による授業評価アンケート実施要領 1-1-③-3_学生による授業評価アンケート結果例 1-1-③-4_卒業生・修了生アンケート結果 1-1-③-5_保護者後援会に関する資料（高松） 1-1-③-6_保護者後援会に関する資料（詫間） 1-1-③-7_香川高専意見箱（学生・保護者）周知文書（非公表） 1-1-③-8_香川高等専門学校外部評価委員会資料	1	学校の構成員及び学外関係者の意見は、担当部署において意見の集約が行われ、それに対して改善が行われている。しかし、学校として総合的に集約して改善につなげる体制整備が不十分であった。  (改善点) 企画評価室は、各部署で集約した学校の構成員及び学外関係者の意見を総合的に管理し、それらに対する改善の方針を決めた上で各部署に指示し、改善を行う体制を整える。
		1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。	3	自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されている。前回の機関別認証評価において「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしている。自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っている。		1-1-④-1_教育点検改善ループ（PDCAサイクル） 1-1-④-2_使命・教育目的の教室掲示 1-1-④-3_Webページ-入学案内（アドミッションポリシー） 1-1-④-4_平成30年度専攻科学生募集要項（抜粋） 1-1-③-8_香川高等専門学校外部評価委員会資料（再掲）	1	前回の機関別認証評価で指摘された改善を要する点について、各部署では個別に改善の対応がされていた。しかし、学校として総合的に把握・点検ができていなかった。 改めて点検したところ、各部署での改善について点検する体制が不十分であり、前回指摘事項について改善が不十分な項目があった。  (改善点) 企画評価室は、機関別認証評価で指摘された事項を総合的に管理し、改善の方針を示した上で各部署に改善を指示する。実施された改善の状況を点検評価委員会で点検する体制を整える。

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：

5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点										
1-2 準学士課程、専攻科課程 それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3	3	ガイドライン等を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを学科ごとに定めている。「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的と整合性を有している。学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力並びに養成しようとする人材像との内容を明確に示している。	教務委員会	1-2-①-1_本科・専攻科の基本方針（3つのポリシー）	3											
				1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。					3	ガイドライン等を踏まえ、カリキュラム・ポリシーを学科ごとに定めている。ディプロマ・ポリシーとの整合性を有している。カリキュラム・ポリシーは、教育課程の編成、教育内容・方法の実施学習成果の評価の内容を示している。	2	カリキュラム・ポリシーを学科ごとに定め、ディプロマ・ポリシーとの整合性を有している。しかし、一部の学科のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの項目の対応関係が解りにくいため、中学生等には理解しにくいものであった。  (改善点) カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの項目を対応させ、中学生にも理解できるように改定する。						
				1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。					3	ガイドライン等を踏まえ、アドミッション・ポリシーを準学士課程全体として定めている。学校の目的や学科の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて策定している。アドミッション・「入学者選抜の基本方針」「求める学生像」を明示し、受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれている。	3							
				1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3				3	3	ガイドライン等を踏まえ、専攻・コースごとにディプロマ・ポリシーを定めている。「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的と整合性を有している。ディプロマ・ポリシーの中で学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示している。	専攻科委員会	1-3-①-1_香川高等専門学校企画運営会議規程 1-3-①-2_香川高等専門学校教務委員会規程 1-3-①-3_香川高等専門学校専攻科委員会規程 1-3-①-4_令和4年度第9回教務小委員会（高松）議事録 1-3-①-5_令和4年度第11回教務小委員会（詫間）議事要録 1-3-①-6_専攻科委員会（R4.11.18）議事概要 1-3-①-7_平成28年度第10回教務委員会議事要録	2	平成28年度に現行の3つのポリシー策定以後、教務小委員会等にて3つのポリシーの改定について検討が開始されている。しかし、社会の状況等を反映した学校全体の組織的なプロセスを経ていない。  (改善点) 今後、3つのポリシー改定は企画評価室を中心に、社会の状況等を反映し、学校全体としての議論を進めていく。			
											1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。					3	ガイドライン等を踏まえ、専攻・コースごとにカリキュラム・ポリシーを定めている。カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの整合性を有している。カリキュラム・ポリシーは、教育課程の編成、教育内容・方法の実施学習成果の評価の内容を示している。	3
											1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。					3	ガイドライン等を踏まえ、アドミッション・ポリシーを定めている。アドミッション・ポリシーは、学校の目的や専攻科課程の目的ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて策定している。アドミッション・ポリシーには、「入学者選抜の基本方針」を明示している。アドミッション・ポリシーには、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示している。受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれている。	3
1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	2	2	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっており、点検し、改定している。														

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：  
5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
2 教育組織及び教員・教育支援者等	2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	2-1-① 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	3	学科の構成が学校の目的及び卒業の認定に関する方針（学科ごとのディプロマ・ポリシー）と整合性がとれている。	教務委員会	1-2-①-1_本科・専攻科の基本方針（3つのポリシー）（再掲） 2-1-①②-1_香川高等専門学校学則	3	
		2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	3	専攻の構成が学校の目的及び修了の認定に関する方針（専攻ごとのディプロマ・ポリシー）と整合性がとれている。	専攻科委員会	2-1-①②-2_香川高専の基本方針（使命・目的）	3	
		2-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	3	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しており、必要な活動を行っている。	教務委員会	1-3-①-2_香川高等専門学校教務委員会規程（再掲） 1-3-①-3_香川高等専門学校専攻科委員会規程（再掲） 2-1-③-1_組織図（学校要覧抜粋） 2-1-③-2_香川高等専門学校学生委員会規程 2-1-③-3_香川高等専門学校入学試験委員会規程 2-1-③-4_教務委員会議事録（非公表） 2-1-③-5_専攻科委員会議事録（非公表） 2-1-③-6_学生委員会議事録（非公表） 2-1-③-7_入学試験委員会議事録（非公表）	3	
	2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	3	一般科目担当の専任教員、専門科目担当の専任教員、専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保している。適切な専門分野の教員が授業科目を担当している。適切な教員配置について専門分野以外に、博士の学位、ネイティブスピーカー、技術資格、実務経験、海外経験を配慮している。	人事委員会	2-2-①②③-1_教員職種別・年齢別在籍状況（非公表） 2-2-①②③-2_教員公募例 2-2-①②③-3_教員選考基準（非公表） 2-2-①②③-4_香川高等専門学校人事委員会規程 2-2-①②③-5_校長裁量経費配分計画	3	
		2-2-② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	3	専攻科の授業科目担当教員を適切に確保している。適切な専門分野の教員が授業科目を担当している。適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当している。			3	
		2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	3	教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう、教育経歴、実務経験、男女比などを配慮している。在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために、任期制、教員表彰制度を導入し、校長裁量経費等の予算配分や他の機関等との人事交流措置している。			3	
	2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	3	全教員（非常勤教員を除く。）に対して校長、副校長による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映の見直し等の適切な取組を行う体制を整備している。その評価結果を基に、給与における措置、研究費配分における措置、表彰を行っている。非常勤教員に対しても教員評価を実施している。	副校長	1-1-③-2_学生による授業評価アンケート実施要領（再掲） 2-2-①②③-5_校長裁量経費配分計画（再掲） 2-3-①-1_教職員の勤務成績評価（優秀者等の決定）についての申合せ（非公表）	3	年度ごとの各教員からの自己評価に加え、教員相互評価、学生からの評価に基づく総合評価を行っている。これに基づき、国立高等専門学校教員表彰に推薦している。なお、学校独自の教員表彰は行っていない。
		2-3-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	3	教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めており、教育上の能力等を模擬授業の実施、教育歴と実務経験と海外経験と国際的な活動実績などを確認する仕組みとなっている。その基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っている。非常勤教員の選考基準等を定めている。	人事委員会	2-2-①②③-4_香川高等専門学校人事委員会規程（再掲） 2-3-②-1_香川高等専門学校教員選考規程 2-2-①②③-3_教員選考基準（非公表） 2-3-②-2_香川高等専門学校非常勤講師の採用に関する内規（非公表）	3	
	2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	3	学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにFDを実施する体制を整備しており、定期的実施している。そのFDを実施した結果が、改善に結びついている。	FD委員会	2-4-①-1_香川高等専門学校FD委員会規程 2-4-①-2_電気情報工学実験Ⅰシラバス 2-4-①-3_電気情報工学実験Ⅰ説明資料	3	
		2-4-② 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	3	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員等。）を法令に従い適切に配置している。図書館に司書等の専門的職員を法令に従い適切に配置している。	事務部長 技術教育支援センター	2-4-②-1_香川高等専門学校の事務組織に関する規程 2-4-②-2_香川高等専門学校技術教育支援センター規則 2-4-②-3_香川高専組織図（事務職員）（非公表） 2-4-②-4_香川高専組織図（技術教育支援センター）（非公表） 2-4-②-5_図書館協会調査票（高松キャンパス）（非公表） 2-4-②-6_図書館協会調査票（詫間キャンパス）（非公表）	3	
		2-4-③ 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	3	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っている。	FD委員会 技術教育支援センター	2-4-③-1_技術職員研修参加状況一覧 2-4-③-2_FD研修等の実施・参加状況	3	

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：  
5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
3 学習環境及び学生支援等	3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	3-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	3	校地面積・校舎面積を法令に従い適切に確保している。運動場を設けている。高松キャンパスには実習工場を整備している。教育研究環境の充実を図るため、厚生施設を設けている。	安全衛生委員会 施設・マネジメント委員会 学生委員会	3-1-①-1_建物配置図（高松キャンパス）（非公表） 3-1-①-2_建物配置図（詫間キャンパス）（非公表） 3-1-①-3_香川高等専門学校_令和4年度学校要覧（抜粋P48） 3-1-①-4_福利厚生施設 3-1-①-5_香川高等専門学校安全衛生管理委員会規程 3-1-①-6_香川高等専門学校安全衛生委員会規程 3-1-①-7_香川高等専門学校環境・施設マネジメント委員会規程 3-1-①-8_香川高等専門学校学生委員会規程	3	設置基準を満たす施設・設備が整備され、附属施設として、実験・実習工場を整備している。また、自主的学習スペース、福利厚生施設等を設けている。これらの施設等については、安全衛生管理体制を整備しており、定期的な校内巡視も実施されている。また、実験実習安全必携や実習工場安全心得等を策定し、学生に対する安全指導や救急法講習会等を実施している。利用状況等を学校として把握し、改善するための体制も整備しており、有効に活用されている。
		3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	3	ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しており、有効に活用している。サイバーセキュリティ管理規程、サイバーセキュリティ推進規程、サイバーセキュリティ教職員規程、情報セキュリティ利用者規程等整備されている。	情報基盤センター委員会	3-1-②-1_香川高等専門学校情報基盤センター委員会規程 3-1-②-2_香川高等専門学校情報セキュリティ委員会規程 3-1-②-3_香川高等専門学校サイバーセキュリティ管理規程 3-1-②-4_香川高等専門学校サイバーセキュリティ推進規程	2	ICT環境の整備・活用は適切に実施されている。しかし、学生及び教職員のICT環境の満足度を把握する取組が十分とはいえない。  (改善点) 満足度の把握については、ICT環境の満足度に関するアンケート調査を毎年、定期的に実施することを検討する。
		3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	3	両キャンパス図書館の設備を備え、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上の必要な書類を系統的に収集・整理している。資料は有効的に活用されている。有効に活用されるための取り組みとしてブックハンティング、図書館便りの発行、長期休業中の長期貸し出しを行っている。	図書館委員会	3-1-③-1_香川高等専門学校図書館規程 3-1-③-2_香川高等専門学校図書館委員会規程 3-1-③-3_香川高等専門学校図書館平面図 3-1-③-4_香川高等専門学校図書館閲覧室配置図 3-1-③-5_香川高等専門学校図書館利用細則 3-1-③-6_香川高等専門学校図書館利用状況（貸出冊数・入館者数） 3-1-③-7_長期休業中の長期貸し出しについて_夏・冬・春 3-1-③-8_「ブックハンティング」開催 3-1-③-9_「図書館だより」発行	3	
	3-2 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。	3	教育を実施する上でのガイダンスを実施している。	教務委員会	3-2-①-1_入学手続きに関する説明会について（ご案内） 3-2-①-2_入学説明会配布資料 3-2-①-3_入学式・登校日・新入生オリエンテーション等日程表（詫間）	3	
		3-2-② 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	3	学生の自主的学習を進める上で、担任制・指導教員制、外国への留学に関する支援体制、修学サポート室を整備している。		3-2-②-1_香川高等専門学校内部組織規程 3-2-②-2_オフィスアワー 3-2-②-3_資格試験受験料補助について 3-2-②-4_香川高専国際交流室公式情報公開用チーム 3-2-②-5_学生との懇談会実施に関する資料 3-2-②-6_香川高専意見箱の投稿数(非公表) 3-2-②-7_香川高等専門学校修学サポート室規程	3	
		3-2-③ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	3	留学生や障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備し、必要に応じて支援を行っている。修学サポート室を整備している。	学生相談室	3-2-③-1_香川高等専門学校外国人留学生規程 3-2-③-2_留学生の手引き 3-2-③-3_香川高等専門学校国際交流室規程 3-2-③-4_香川高等専門学校外国人留学生チューター制度実施要項 3-2-③-5_香川高等専門学校修学サポート室規程 3-2-③-6_障害学生への支援に関する規則	3	
		3-2-④ 学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	3	学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制が整備されている。学生相談室を設置し、相談員やカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置している。ハラスメント等の相談体制、いじめ防止・早期発見・対処等の体制も整備されている。奨学金や授業料免除、緊急時の貸与等の制度も整備されている。指導・相談・助言等の活動が実際に学生に利用されている。健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に実施している。		3-2-④-1_香川高等専門学校学生相談室規程 3-2-④-2_保健だより 3-2-④-3_学生相談室利用案内 3-2-④-4_ハラスメントの防止等に関する規程 3-2-④-5_いじめ対策委員会規程 3-2-④-6_奨学金等の利用状況 3-2-④-7_学校保健年間計画（詫間）	3	
		3-2-⑤ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。	3	キャリア教育支援の中で企業説明会、就職活動支援、インターンシップはキャリアサポートセンターを整備し、キャリアサポートセンター委員会で運営方針を決定している。講演会・保護者懇談会・インターンシップや資格取得の単位認定などは教務委員会が主管となり、担任等が協力して実施している。		キャリアサポートセンター委員会	3-2-⑤-1_キャリアサポートセンター規程 3-2-⑤-2_仕事研究セミナーパンフレット・ポスター 3-2-⑤-3_合同企業説明会実施要項 3-2-⑤-4_資格取得による単位認定状況（非公表）	3
		3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	3	学生の課外活動に対する支援体制を整備し、責任の所在が明確になっている。支援体制は機能している。	学生委員会	3-2-⑥-1_教員の手引き（学生支援関係） 3-2-⑥-2_顧問名簿（高松） 3-2-⑥-3_顧問名簿(詫間) 3-2-⑥-4_課外活動支援員雇用状況	3	
		3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	3	両キャンパスに学生寮を整備している。浴室、食堂、補食室、洗濯場など、生活に必要な施設・設備を備えている。国際寮が令和4年度に竣工し、令和5年度から開寮する。	寮務委員会	3-2-⑦-1_学寮施設棟別平面図（高松） 3-2-⑦-2_学寮施設棟別平面図(詫間) 3-2-⑦-3_寮生活のしおり(高松) 3-2-⑦-4_寮生活のしおり(詫間) 3-2-⑦-5_寮務委員会規程	3	清雲寮（国際寮）が令和5年度に開寮した。この国際寮は留学生と日本人学生が混住するシェアハウス型であり、学生の国際性の涵養に貢献している。

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：

5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
4 財務基盤及び管理運営	4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	4-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	3	過去5年間の貸借対照表等による財務状況は適切な状況となっている。校地・校舎等の資産を保有している。過去5年間に於いて運営費交付金、授業料収入、入学金、授業料等の経常的な収入を確保している。過去5年間の収支状況において支出超過となっていない。	管理課	4-1-①-1_損益計算書(平成30年度-令和4年度) (非公表) 4-1-①-2_貸借対照表(平成30年度-令和4年度) (非公表) 4-1-①-3_長期未払金(平成30年度-令和4年度) (非公表) 4-1-①-4_施設配置図(高松・詫間) 4-1-①-5_決算報告書(平成30年度-令和4年度) (非公表)	3	
		4-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されている。	3	収支に係る方針、計画等を企画運営会議で審議し策定している。関係者（教職員）に明示されている。	企画運営会議		3	
		4-1-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対するの資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	3	学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っている。高専機構の当初予算配分（通知）を受け、予算計画・予算配分方針（案）及び学内当初予算配分（案）を策定し、策定された案を企画運営会議で審議し、承認を得た後に予算配分通知により学内に周知しており、資源配分は収支に係る方針、計画と整合性がある。	企画運営会議	1-3-①-1_香川高等専門学校企画運営会議規程（再掲） 4-1-②③-1_企画運営会議議事概要 4-1-②③-2_予算計画・予算配分方針(案)及び学内当初予算配分(案)	3	
		4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	3	高専機構が財務諸表等の公表を行っている。独立行政法人国立高等専門学校機構内部監査規則、高専相互会計内部監査を適正に行っている。	管理課	4-1-④-1_財務諸表等 4-1-④-2_独立行政法人国立高等専門学校内部監査規則（非公表） 4-1-④-3_香川高等専門学校内部会計監査実施規程 4-1-④-4_令和3年度高専相互会計内部監査報告事項等一覧（非公表）	3	
	4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	3	管理運営体制として企画運営会議規程を整備している。内部組織規則を整備し、委員会等の体制を整備している。校長、主事等の役割分担が明確になっている。事務組織等に関する規程を整備している。校務分担表を作成し、教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連携体制を確保している。体制の下、効果的な活動を行っている。	企画運営会議	1-3-①-1_香川高等専門学校企画運営会議規程（再掲） 3-2-②-1_香川高等専門学校内部組織規則（再掲） 2-1-③-1_組織図(学校要覧抜粋)（再掲） 4-2-①-1_香川高等専門学校の事務組織等に関する規程 4-2-①-2_令和4年度校務分担表	3	
		4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	3	危機管理規則を制定し、危機管理体制を整備している。また、危機管理マニュアルを整備し、危機に備えている。防災訓練を行い、危機に備えた活動も行っている。	リスク管理室	4-2-②-1_危機管理マニュアル 4-2-②-2_香川高等専門学校危機管理規則 4-2-②-3_防災訓練実施要領（高松）（非公表） 4-2-②-4_防災訓練実施要領（詫間）（非公表） 4-2-②-5_学生寮避難訓練要領（高松）（非公表） 4-2-②-6_学生寮避難訓練要領（詫間）（非公表）	3	
		4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	3	国立高等専門学校機構における公的研究費等の取扱いに関する規則、公的研究費等の適正な運営・管理について整備されている。	地域人材開発本部会議 みらい技術共同教育センター委員会	4-2-③-1_公的研究費等の運営・管理体制に関する申し合わせ 4-2-③-2_科研費公募説明会(Webオンデマンド) 通知 4-2-③-3_年報2021（令和4年度発行）	3	
		4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。	3	香川高専人材バンクを整備し、卒業生等の登録者が香川高専の人材育成の支援、地元企業の技術相談、香川高専地域人材開発本部の活動支援を行っている。	地域イノベーションセンター委員会	4-2-④-1_香川高専産業技術振興会パンフレット 4-2-④-2_公開講座・技術講座実施一覧	3	
		4-2-⑤ 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。	3	全教職員対象に、毎年夏FD・SD研修会を実施している。「現代学生の理解と関わり方」「公費不正防止に関するコンプライアンス」などの研修を行った。	総務課	4-2-⑤-1_FD・SD研修会開催通知 4-2-⑤-2_FD・SD研修会実施状況 4-2-⑤-3_事務職員・技術職員対象のSD研修等の実施・参加状況	3	
		4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	3	4-3-① 学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。	3	学校の使命・教育目的、組織、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は終了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境など教育情報を法令に従い、ホームページや学校要覧にて適切に公表している。	企画評価室	4-3-①-1_令和4年度学校要覧 香川高等専門学校Webページ（ <a href="https://www.kagawa-nct.ac.jp/">https://www.kagawa-nct.ac.jp/</a> ）

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：  
5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
5 準学士課程の教育課程・教育方法	5-1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	3	カリキュラムポリシーが学科ごとにある。進級に関する規程を整備している。1年間の授業を行う期間を定期試験期間等の期間を含め、35週確保している。特別活動を90単位以上実施している。	教務委員会	1-2-①-1_本科・専攻科の基本方針（3つのポリシー）（再掲） 5-1-①-1_教育課程表 5-1-①-2_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程 5-1-①-3_行事予定表	2	カリキュラム・ポリシーを学科ごとに定め、ディプロマ・ポリシーとの整合性を有している。しかし、一部の学科のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの項目の対応関係が解りにくいため、中学生等には理解しにくいものであった。  (改善点) カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの項目を対応させ、中学生にも理解できるように改定する。
		5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	3	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮として、インターンシップによる単位認定、最先端の技術に関する教育を行っている。		5-1-②-1_校外実習の履修に関する規則 5-1-②-2_校外実習シラバス 5-1-②-3_シラバス (AI_I) 5-1-②-4_シラバス (AI_II)	3	
		5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	3	創造力・実践力を育む教育方法の工夫を行っている。		○創造力を育む教育を実践している科目のシラバス 5-1-③-1_機械工学科：機械工学演習 I 5-1-③-2_電気情報工学科：卒業研究 5-1-③-3_機械電子工学科：メカトロニクスシステム設計 5-1-③-4_建設環境工学科：創成工学 5-1-③-5_通信ネットワーク工学科：通信工学セミナー 5-1-③-6_電子システム工学科：卒業研究 5-1-③-7_情報工学科：情報工学セミナー ○実践力を育む教育を実施している科目 5-1-②-2_校外実習シラバス（再掲）	3	
	5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	3	カリキュラムポリシーが学科ごとにある。授業形態のバランスが適切であり、教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされている。	教務委員会	○教育実践事例報告会 5-2-①-1_講義形態ごとの単位数割合 5-2-①-2_シラバス（論理回路） 5-2-①-3_シラバス（人文科学Ⅱ） 5-2-①-4_フィールド型授業事例（建設環境実験実習Ⅱ）	3	
		5-2-② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	2	カリキュラムポリシーが学科ごとにある。教員及び学生のシラバスの活用状況について把握する仕組みを作る必要がある。設置基準第17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しており、1単位時間50分で規定、45分で運用している。1単位の履修時間は授業時間以外の学修等と合わせて45時間であることを明示している。		○シラバスの活用状況 1-1-③-3_学生による授業評価アンケート結果例（再掲） 5-2-②-1_シラバス活用の周知（読間キャンパス）（非公表）  ○学修単位の時間の明示 5-1-①-1_教育課程表（再掲） 5-2-②-2_学修単位科目シラバス例（土質力学Ⅲ）	2	シラバスの活用状況については、教員および学生の活用状況の把握が不十分であった。  (改善点) 改善策について、教務委員会で検討する。また、学修単位のシラバス記載については、ポートフォリオの相互点検においてチェックを強化する。
	5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	3	成績評価や単位認定に関する基準を、学科ごとのカリキュラムポリシーに基づき策定している。基準に基づき、各授業科目の認定を行っている。1単位の履修時間が授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握している。成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知している。定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）も成績評価に加えている。成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会がある。成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置として答案を返却している。	教務委員会	5-1-①-2_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程（再掲） 5-3-①-1_香川高等専門学校単位追認試験実施申し合わせ 5-3-①-2_再試験実施に関する申し合わせ(高松) 5-3-①-3_再試験実施に関する申し合わせ(読間)	2	同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック、試験問題のレベルや成績評価方法が適切であることのチェックが不十分であった。企画評価室の指示により教務委員会で令和4年度のポートフォリオを再点検した結果、以下の点が確認された。  ・一部の授業科目において、試験問題の水準が高等専門学校で行われる教育内容として適切ではない。 ・一部の授業科目において、本試験と再試験で同一の試験問題が出題されている。 ・一部の授業科目において、シラバス通りの成績評価がされていない。  (改善点) 企画評価室で点検基準を定め、毎年ポートフォリオの点検をする。教務委員会において確認された問題のある科目については、教務主事から改善を指示する。  成績評価結果に関する学生の意見申し立てについては、申し立ての都度対応しており機会としては提供している。しかし、申し立ての期間の設定とその周知がなされていない。  (改善点) 成績評価に関する申し立て期間を設定する。令和5年度においては、学生への周知のみを実施し、令和6年度からは行事予定表に申し立て期間を明記する。
		5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	3	学則で修業年限を5年と定めている。卒業認定に関するディプロマ・ポリシーに基づき、卒業認定基準を定めており、卒業認定している。卒業認定基準を学生に周知している。		2-1-①②-1_香川高等専門学校学則（再掲） 5-1-①-2_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程（再掲） 5-3-②-1_学生便覧（教務関係）	3	

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：  
5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
6 準学士課程 の学生の受入れ	6-1 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	6-1-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	3	<p>入学選抜検査実施要領に基づき、推薦選抜・学力選抜ごとにアドミッション・ポリシーを反映した選抜を行っている。</p> <p>準学士課程1年次への入学選抜は、推薦と学力による選抜を実施している。（推薦による選抜）</p> <p>中学校長から提出された推薦書、調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合して選抜を行っている。</p> <p>アドミッション・ポリシーについては、受検者の志望学科における面接においてアドミッション・ポリシーに関する各々の項目について口頭質問を行い評価している。また、中学校の学級担任等が評価、中学校長が確認したアドミッション・ポリシー確認票の提出を求めており、その内容を確認している。</p> <p>（学力による選抜）</p> <p>学力検査と、中学校長から提出された書類を総合して選抜を行っている。学力検査は、国立高等専門学校機構が作成する全国統一の試験問題により、国語、社会、数学、理科及び英語の5教科で実施している。アドミッション・ポリシーについては、本校が掲げるアドミッション・ポリシーに沿った中学生を受け入れるために、中学校の学級担任等が評価、中学校長が確認したアドミッション・ポリシー確認票の提出を求め、その内容を確認している。準学士課程4年次への編入学生選抜は、学力による選抜のみ実施している。学力検査の成績及び面接の結果を総合して可否を決定している。アドミッション・ポリシーについては、受検者の志望学科における面接で、アドミッション・ポリシーに関する各々の項目について口頭質問を行い、評価している。</p>	入学試験委員会	<p>6-1-①-1_令和5年度学生募集要項</p> <p>6-1-①-2_令和5年度香川高専編入生特別選抜募集要項</p> <p>6-1-①-3_令和5年度香川高専編入学生募集要項</p> <p>6-1-①-4_令和5年度入学選抜(学力)実施要領（非公表）</p> <p>6-1-①-5_面接実施要領（R5本科推薦選抜）（非公表）</p> <p>6-1-①-6_面接実施要領（R5編入生特別選抜）（非公表）</p> <p>6-1-①-7_面接実施要領（R5編入学生）（非公表）</p> <p>6-1-①-8_本科入学選抜可否判定方法（非公表）</p> <p>6-1-①-9_編入生特別選抜可否判定方法（非公表）</p> <p>6-1-①-10_編入学生可否判定方法（非公表）</p>	3	
		6-1-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。	3	<p>アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているか検証したり、検証結果を改善に役立てるための全学的な組織として、入学試験委員会を設置し、高松、詫間両キャンパスには入学試験小委員会を設置している。これらは入学選抜に関することや入学選抜の実施、その必要な事項に関して協議すること主目的として、情報収集及び改善を行っている。</p> <p>準学士課程では入学直後に行う基礎学力試験等、進級学生・原級学生等の動向調査、出身中学校別の成績分布による追跡調査、入学選抜における成績と入学後の成績の追跡調査により、専攻科課程では退学者数と学位取得者数の追跡調査により、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入について検証を行っている。毎年、新入学生には入学後に、中学校における基礎学力を調査するため数学・英語に関して実力試験を行い入学者の学力の把握に努めている。また、毎年度の進級・原級・退学の状況を調査し、概ねアドミッション・ポリシーに適合する学生が入学していると考えられる。また、推薦基準や選抜方法による効果を検討するため、入学者の出身中学校別の成績分布を作成し、入学後の成績について追跡調査を実施している。毎年度末に、入学獲得対策委員会において調査結果を基に、次年度の入学選抜の改善について検討している。</p>	入学試験委員会	<p>2-1-③-3_香川高等専門学校入学試験委員会規程（再掲）</p> <p>6-1-②-1_令和4年度第2回入学試験委員会議事概要（非公表）</p> <p>6-1-②-2_令和3年度の進級・原級者等の状況（高松C）（非公表）</p> <p>6-1-②-3_令和3年度の進級・原級者等の状況（詫間C）（非公表）</p> <p>6-1-②-4_出身中学校別の成績分布による追跡調査（詫間C）（非公表）</p>	2	入学試験委員会を中心に、分析データを基にした入試改善の検討を継続して行っている。

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：  
5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
		6-1-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	3	学生定員を学科ごとに1学級当たり40人を標準として、学則で定めている。 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備している。 過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正である。		2-1-①②-1_香川高等専門学校学則（再掲） 2-1-③-3_香川高等専門学校入学試験委員会規程（再掲） 4-2-③-3_年報2021（再掲）	3	
7 準学士課程の学習・教育の成果	7-1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。	7-1-① 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	3	学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備していない。 学生の卒業認定の状況ならびに各学年における進級・原級・退学の状況から、各学年と卒業時において学生が身に付ける学力や資質・能力の達成状況を評価している。各種資格取得状況について、技術者資格、TOEIC、検定試験などの外部試験で好成績を修めており、教育の成果や効果が認められる。 準学士課程の卒業研究では、発表会での口頭発表と研究論文の作成を課している。 英語力について、高松キャンパスでは専攻科1年生に TOEIC IP、本科3年生に TOEIC Bridge、詫間キャンパスでは専攻科1年生と本科4年生に TOEIC IP、本科3年生に GTEC の受験を義務づけており、近年の GTEC、TOEIC IP においてスコアの向上が見られる。 学生の進級・卒業・修了の割合、資格取得状況、研究成果発表と表彰の実績、TOEIC IP テスト等による英語力評価などから、各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が認められる。	教務委員会	7-1-①-1_卒業認定会議資料（高松）（非公表） 7-1-①-2_進級認定会議資料（高松）（非公表） 7-1-①-3_卒業・進級認定会議資料（詫間）（非公表） 7-1-①-4_単位認定状況（資格取得、香川大学との単位互換、校外実習）（非公表）	3	学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制について再点検を行ったところ、把握・評価するための体制が整っていることを確認した。 カリキュラムポリシーに沿った教育課程の進級・卒業を適正に判定する体制となっている。
		7-1-② 達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	3	学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備していない。 学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況を把握するため、「学習達成度の自己点検に関するアンケート」を、卒業時に5段階評定により実施している。その分析結果から、準学士課程の7学科全てにおいて、卒業時に身につけるべき学力や資質・能力に対する各項目の評価は、全ての項目においてほぼ3以上の数値を示している。 学生が在学時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況について、主な就職先企業へのアンケートを実施することにより確認している。調査結果から、科学技術の基礎知識と応用力（知識）や課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）について、本科卒業生の約50%の者が十分、ほぼ十分であると回答している。また、本校における専門技術に関する教育について、大部分の者が高い評価をしている。 就職先企業が卒業生（修了生）に求めるレベルに対して、約8割の企業から高い評価を得ている。以上のことから、卒業生や進路先関係者から、卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しており、また、その結果から判断して、教育の成果はおおむね上がっている。近年、数学の基礎学力が不足している学生が入学していること、低学年での原級者等が減少しないことに鑑み、平成27年度に新たな検証として、学力選抜で入学した学生について、進級した学生と原級・退学した学生に対し学力試験の成績と内申点についてそれぞれの平均点の差の有意性を調査した。		1-1-③-4_卒業生・修了生アンケート結果（再掲） 7-1-②-1_香川高専5年生対象年度末アンケート結果（高松） 7-1-②-2_香川高専5年生対象年度末アンケート結果（詫間）	3	学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制について再点検を行ったところ、把握・評価するための体制が整っていることを確認した。 卒業時に実施するアンケート、企業アンケート等の集計結果を教務委員会、専攻科委員会で確認している。  就職企業先からの評価について、令和5年4月実施の卒業生の就職先企業対象アンケートに基づいて再点検を実施した。ディプロマポリシーの達成度は、4項目すべてにおいて高い評価を得ていることが確認できた。 追加資料7-1-②-3_企業アンケート集計結果
		7-1-③ 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	3	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められる。 学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっている。 卒業生、修了生の企業での配属先は、各専門学科で修得した技術が生かせるよう、製造・生産部門が35%と最も多く、次いで設備の維持管理、設計、研究開発となっている。 準学士課程における過去5年間の進路状況は、進学と就職は、ほぼ同率の50%、就職率は、ほぼ100%を達成している。専攻科の就職率についても、準学士課程と同様、ほぼ100%を達成している。 就職先は、製造業、エンジニアリング関連企業及び公務員などの工学系に分類され、進学においても、多くの卒業生が国立大学の工学系へ進学している。		4-3-①-1_令和4年度学校要覧 香川高等専門学校Webページ（ <a href="https://www.kagawa-nct.ac.jp/">https://www.kagawa-nct.ac.jp/</a> ）（再掲）	3	

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：  
5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
8 専攻科課程の教育活動の状況	8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	3	カリキュラム・ポリシーに基づき、授業科目を適切に配置し、教育課程を体系的に編成している。	専攻科委員会	2-1-①②-2_基本方針（使命・目的）（再掲） 1-2-①-1_専攻科の基本方針（3つのポリシー）（再掲） 5-1-①-1_教育課程表（再掲）	3	
		8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	3	準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっている。		8-1-②-1_特例適用専攻科の審査結果（非公表）	3	
		8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らし、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	3	カリキュラム・ポリシーに基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態を採用している。それぞれの教育内容に応じて、教材の工夫、少人数教育、フィールド型授業、情報機器の活用等学習指導上の工夫をしている。		講義形態ごとの単位数割合 ○教材を工夫している科目のシラバス 8-1-③-1_応用ネットワークプログラミング ○少人数教育を行っている科目のシラバス 8-1-③-2_特別実験・演習Ⅱの後期 デザイン教育 ○対話・討論型授業を行っている科目のシラバス 8-1-③-3_環境倫理・マネージメント 討論型授業 ○フィールド型授業を行っている科目のシラバス 8-1-③-2_特別実験・演習Ⅱの後期 デザイン教育（再掲） ○情報機器の活用をしている科目のシラバス 8-1-③-4_情報工学概論 VHDL	3	
		8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	3	学生への教養教育や研究指導を、適切に行っている。		8-1-②-1_特例適用専攻科の審査結果（非公表）（再掲）	3	
		8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	3	成績評価や単位認定に関する基準を、カリキュラム・ポリシーに基づき策定し、単位認定を行っている。1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置し、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として授業評価アンケートにより把握している。学生には成績評価や単位認定に関する基準を学生便覧に記載、配布等により周知している。学生の認知状況を学校としては把握していない。定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めている。定期試験ごとに評価に対する学生からの申し立てができるように答案返却期間を設けている。また、成績評価の客観性・厳格性を担保するため、答案の返却、複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック、試験問題のレベルが適切であることのチェック等、組織的に行っている。		8-1-⑤-1_香川高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程 8-1-⑤-2_令和3年度授業評価アンケート集計結果（専攻科1年） 8-1-⑤-3_令和3年度授業評価アンケート集計結果（専攻科2年） 8-1-⑤-4_専攻科学生便覧（高松） 8-1-⑤-5_専攻科学生便覧（詫間） 8-1-⑤-6_行事予定表（高松） 8-1-⑤-7_行事予定表（詫間） 8-1-⑤-8_教科ポートフォリオ作成・保管の手引き（高松） 8-1-⑤-9_成績評価資料保存の手引き（詫間）	2	複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック、試験問題のレベルが適切であることのチェックが不十分であった。企画評価室の指示により専攻科委員会で令和4年度のポートフォリオを再点検した結果、以下の点が確認された。  ・一部の授業科目において、試験問題の水準が高等専門学校専攻科で行われる教育内容として適切ではない。 ・一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。  (改善点) 企画評価室で点検基準を定め、毎年ポートフォリオの点検を行う。問題のある科目については、専攻科委員会において確認したうえで、専攻長から担当教員に改善を指示する。
		8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	3	学則に修業年限2年と定め、ディプロマポリシーに基づき修了認定基準を定め、修了認定している。学生へは修了認定基準を学生便覧等の配布により周知している。		2-1-①②-1_香川高等専門学校学則（再掲） 8-1-⑤-1_香川高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程（再掲） 8-1-⑥-1_専攻科修了認定会議資料（創造工学専攻）（非公表） 8-1-⑥-2_専攻科修了認定会議資料（電子情報通信工学専攻）（非公表） 8-1-⑤-4_専攻科学生便覧（高松）（再掲） 8-1-⑤-5_専攻科学生便覧（詫間）（再掲）	3	
8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	3	アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等）、面接内容、配点・出題方針等）となっている。	専攻科委員会	8-2-①-1_令和5年度専攻科学生募集要項 8-2-①-2_令和5年度専攻科入学選抜（推薦）実施要領（非公表） 8-2-①-3_令和5年度専攻科入学選抜（学力）実施要領（非公表） 8-2-①-4_令和5年度専攻科入学選抜（推薦）合格者選抜会議資料（非公表） 8-2-①-5_令和5年度専攻科入学選抜（推薦）合格者選抜会議議事概要（非公表） 8-2-①-6_令和5年度専攻科入学選抜（学力）合格者選抜会議資料（非公表） 8-2-①-7_令和5年度専攻科入学選抜（学力）合格者選抜会議議事概要（非公表）	3		
	8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。	3	アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れられているかの検証及び検証結果を改善に役立てる体制として専攻科委員会が組織され、専攻科委員会規程が整備されている。検証が行われ、改善に役立てている。		1-3-①-3_香川高等専門学校専攻科委員会規程（再掲） 8-2-②-1_香川高等専門学校専攻科修了認定会議規程 8-2-②-2_専攻科生アンケート結果	3		
	8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっているか。また、その場合には、入学選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	3	学生定員を専攻科毎に学則で定め、専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備している。		2-1-①②-1_香川高等専門学校学則（再掲） 1-3-①-3_香川高等専門学校専攻科委員会規程（再掲）	3		

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：

5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。		8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	3	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備している。（修了認定会議、ポートフォリオ）学習・教育・研究の成果を把握・評価している。	専攻科委員会	1-3-①-3_香川高等専門学校専攻科委員会規程（再掲） 8-1-⑥-1_専攻科修了認定会議資料（創造工学専攻）（非公表）（再掲） 8-1-⑥-2_専攻科修了認定会議資料（電子情報通信工学専攻）（非公表）（再掲） 8-1-⑤-8_教科ポートフォリオ作成・保管の手引き（高松）（再掲） 8-1-⑤-9_成績評価資料保存の手引き（詫間）（再掲）	3	
		8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	2	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備している。修了時、修了生に対するアンケートにより、学習・教育・研究の成果の把握・評価を行う予定である。		1-3-①-3_香川高等専門学校専攻科委員会規程（再掲） 8-2-②-1_香川高等専門学校専攻科修了認定会議規程（再掲）	2	令和4年度末にアンケート調査を実施し、学習・教育・研究の成果の把握・評価を行った。 資料8-2-②-2_専攻科生アンケート結果
		8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	3	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められる。学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっている。		4-3-①-1_学校要覧（再掲）	3	
		8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	3	過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められる。		8-3-④-1_修了率・学位取得状況	3	
9 正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事項	9-1 高等専門学校の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。（一般市民を対象とした公開講座）（地域小中高生へのSTEAM教育）（学外行事・催物への支援を通じた地域社会への貢献）	9-1-① 本校が主体的に行う教育サービスとして、専門技術講座、一般教養講座などの公開講座の開講を通して、地域住民に生涯学習も含めて学習の機会を提供しているか。	4	専門技術講座、一般教養講座などの公開講座を計画的に開講している。募集はホームページお知らせで行い、実施後ホームページTOPICSに掲載している。また、公開講座実施後はアンケートをとり、意見を反映している。受講者の満足度は、ほぼ100%の評価である。 科目等履修生規程を定め、学習機会が提供している。 図書館は本校以外の者も利用できる。	地域人材開発本部会議 みらい技術共同教育センター委員会 地域イノベーションセンター委員会 AI社会実装教育研究本部委員会 社会基盤メンテナンス教育センター委員会	4-2-④-2_令和3年度-令和4年度公開講座・技術講座実施一覧（再掲） 9-1-①-1_HP公開講座トピックス 9-1-①-2_学校要覧（抜粋） 9-1-①-3_香川高等専門学校科目等履修生規程 9-1-①-4_香川高等専門学校図書館規程	4	
		9-1-② 小中高校への出前授業や地域の行事・催物における科学技術体験教室を通して、科学技術の本質や科学の発展に従事する研究者・技術者の姿に触れる機会を与え、我が国の時代を担う次世代の育成を図っているか。	4	県内小学校からの依頼により出前授業を実施している。 高松市との連携事業により科学体験教室を開講している。令和3年度は9回、令和4年度は19回実施を計画しており、今後も継続予定である。 三豊市少年少女発明クラブや小中学生向け高専公開講座と両キャンパスそれぞれ開講し、小中学生を対象として次世代の育成を図っている。		9-1-②-1_HP出前授業トピックス 9-1-②-2_HP香川高専おもしろ体験教室トピックス 9-1-②-3_HP三豊市少年少女発明クラブトピックス 9-1-②-4_HP小中学生向け高専公開講座トピックス	4	高松市との連携事業による科学体験教室は、令和4年度に19回実施した。
		9-1-③ 地域産業界等、学外からの依頼に応じ、行事・催物に参加し、理工系分野の啓蒙活動を図るとともに地域社会への貢献を果たしているか。	4	地域支援団体、自治体等から依頼を受け、学生が中心となって子供向け催物への協力を行っている。 AI社会実装教育研究本部を設置し、サマースクールなどAI人材育成教育を行っている。 社会基盤メンテナンス教育センターを設置し、人材育成講座を開講している。 香川高専ホームページにて公開講座・出前講座の募集や報告を行っている。適宜プレスリリースを発信し社会への情報提供を行っている。		9-1-③-1_HP地域行事参加トピックス 9-1-③-2_HP AI教育実施トピックス 9-1-③-3_AI I II シラバス 9-1-③-4_令和3年度社会基盤メンテナンス教育センター活動報告 9-1-③-5_HP社会基盤メンテナンス教育センタートピックス	4	

令和4年度 香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

分析結果：

5 特に優れている 4 優れている 3 水準に達している 2 改善の余地がある 1 改善を要する

評価項目	評価基準	観 点	分 析	現 状	担当部署	根拠資料	再点検 分析	再点検結果と改善点
10 国際交流に関する事項	10-1 国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能していること。	10-1-① 国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能しているか。	3	タイにおける「KOSEN」の導入支援として、専門学科教員1名を令和3年度より派遣している。高専機構タイ高専教員派遣要請に応え2名を推薦した。 高松キャンパスでは令和5年4月に70名定員の国際寮が竣工し、海外からの留学生受け入れ体制の整備を行った。 海外渡航する学生には海外旅行保険に加入するよう指導している。「海外渡航届」を新型コロナウイルス対応の様式に改定した。 ISATE2022にて教員の研究発表（2名）を行った。 台湾国立成功大学と合同授業を行い、12/13～17の間大学を学生4名、教員3名で訪問し合同授業や国際会議を聴講した。 JASSO派遣プログラム申請を行い、年度末のUITMとの国際ワークショップにてJASSOの学生派遣の支援を行う。 国際学会の教員の参加・発表（5名（オンライン2名含む））や、11/1以降の海外渡航の条件の緩和により、教員および学生の国際学会、セミナーの参加は予定されている。 英語版学校要覧を作成し協定校に配布した。国際交流室のTOPICS記事の英語版を作成しホームページに掲載している。 1年次からの留学生の受け入れについては検討を継続している。	国際交流委員会 国際交流室会議	10-1-①-1_令和4年度第2回寮務委員会資料 10-1-①-2_海外渡航届 10-1-①-3_平成31年度ニュージーランドAra海外英語演習説明会配布資料 10-1-①-4_国際交流活動参加承諾書及び同意書 10-1-①-5_留学生の成績通知例（非公表） 10-1-①-6_留学生個人面談における成績、進路指導例 10-1-①-7_I SATE2022_program(抜粋) 5-1-②-4_シラバス（AI_II）（再掲） 10-1-①-8_台湾国立成功大学訪問実施伺 10-1-①-9_Teams国際交流室公開 10-1-①-10_英文学校要覧	3	
	10-2 国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられていること。	10-2-① 国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられているか。	3	協定校との単位互換制度の検討は継続している。 本校の方針は、感染症危険情報レベル1以上の国・地域への渡航不可であったが11月1日より、感染症危険情報レベル1、危険情報レベル1については、十分に注意を行うことで派遣が可能になったため、年度末に開催するUITMとの国際ワークショップへの学生派遣の準備中である。 「アクティビティ研修」や研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」等の研修プログラムについて、国際交流室が中心となって企画、実施等を行っている。 台湾国立成功大学と連携し、10月よりAIとロボティクスに関するオンライン授業を実施している。受講学生数は、香川高専5名、国立成功大学25名。 本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育を行っている。 英語ネイティブ教員による英会話教室を春休みに実施予定である。 Teamsにて国際交流室関係の報告会、募集周知などがいつでも閲覧できるように整備した。 新型コロナウイルスのため停滞していたが、可能な範囲で国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられている。	国際交流委員会 国際交流室会議	10-2-①-1_新型コロナウイルス感染症に対する本校の対応方針 10-2-①-2_平成30年度第3回国際交流室会議資料 10-2-①-3_令和元年度第1回国際交流室会議資料 10-2-①-4_国際交流室公開イベント	3	令和5年3月開催のUITMとの国際ワークショップへは教員2名を派遣した。学生の派遣はない。 英語ネイティブ教員による英会話教室を、令和5年3月2日（木）から3月17日（金）までの期間中10回（2時間/回）実施した。参加学生の延べ人数は36名であった。

## 令和5年度香川高等専門学校外部評価委員会 委員発言要旨

### 議題1. 香川高等専門学校を取り巻く現状と活動

○委員長 只今の説明につきまして、ご質問ご意見等ございましたらご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

○委員 19ページのところにごございます体験教室ですとか、公開講座開催を実施していることについて、やはり受験生の確保とか理系人材の育成等をやられてると思うんですけども、実際受験する学生さんとかにどのぐらいこれが貢献してるかという手応えはありますでしょうか。

○田中校長 明確な統計的なデータというまともにはなっておりませんが、受験生の中には教室で実際に手を動かして触れることで、高専というものを知り、こういうことをやってみたいと思ってくれた学生が、散見される程度の数ではありますけど見えてきております。これは継続的に（体験教室等を）実施していることが大きく、小学生ぐらいのころから早くに馴染んでいただいて、中学になって進路を考えていただくときに、もう1回浮き上がってくるということになってきます。そんなに大きな数にはならないですが、着実に毎年そういう学生がいてくれていると、全体としてそれなりの効果を持っていると思います。ただ、これを全体の嵩上げのところまでつなげているかという、それはなかなかまだできてないところもございまして。それをどうやって積み上げていくかということをご今後の課題として考えているところでございまして。

○委員 ありがとうございます。

○委員長 他ございませんか。

○委員 ご説明いただいた資料で言うと、4ページになるんですが、現在の就職について、丁寧な資料を作ってくださいよくわかりましたが、約4割が県内で6割が県外で、県外の方が多いということで、この就職の4割というのは、例えば他の地方の高専も同じくらいなのか、香川県が多い方なのか少ない方なのかということが、もしわかれば教えてほしいです。イメージとしてこの4割ってというのは比較的低いなっていう気がしており、もう少し、さらに地元で就職してもらうために、どういう取り組みが本当にできるのか、なぜ皆さんそこまで県外に行きたがるのか、正直中学から選択するときに高専を希望した人が、次に進学する時にはさらに県外に就職するでしょうから、高専を卒業されて就職する中で約4割って言われると、地元でせっかく身につけたものが外に流れているという気がしており、どういう取り組みをしたらいいのかと、当方から提案はないのですが、少し課題ではというのが一点あります。もう一つは、留学生は何人が常に在籍しているのかを教えてくださいなのですが、留学生はそのまま県内、あるいは日本で就職されるのはどのぐらいいるのというところを教えてください。

○副校長 留学生は常に数名は在籍している形になります。留学生の卒業後の進路として多いのが進学です。大学に進学して、その後母国等に帰って、日系の企業に就職するという形が多いのではないかと思います。

○田中校長 少し補足させていただきたいと思います。まず留学生は、コロナの前に比べると今減っております。受け入れがなかなかできていなかったですが、今復活と申しますか、前に戻

すのではなく、より増やしていきたいと思っております。狙いは何かと言いますと、私どもの学生で海外に出るチャンスというのはなかなか全員がチャンスを取れるというわけにはいかないと、思いますので、学校の中においてインターナショナルな環境を身につけるといいう機会を取りたいということで、学校の中にいろんな国から来てくれた留学生と接することでキャンパスそのものの国際化という方向を目指すというところがあります。最初に副校長の方から、理事長のメッセージの中にわざわざローマ字で KOSEN と書いてあったのですけれども、高専はモンゴル、ベトナム等々で活動してきております。また、今はタイ政府と日本政府の間で協定契約がございまして、タイに高専を今設置している準備を進めております。3年、4年生が出てきているところがございますけれども、その学生を日本の国内の高専で1ヶ月程度の単位を研修で受け入れて、タイに貢献するというのではなくて、我々もタイの学生を受け入れることで、日本国外の学生がどんなモチベーションで技術に取り組んでいるのか、また日本の企業がそういう地域に進出されるところの中で、どういうふうなことを現地の人たちは感じているのかというようなことを、知ってもらう機会ということを考えております。私どもの学校におきましても、2年後と3年後に数十名単位の学生をキャンパスに振り入れて短期のインターンシップを行うことで、我々も学生の方にもインターナショナルな感覚を持ってもらいたいと考えております。

最初の質問に戻らせていただきまして、県内就職率の問題は、毎回ご指摘いただきながら十分なデータを示せてなかったところで、今回このような資料を作成いたしました。就職率が6割から7割ぐらいで、そのうちの3割、4割ぐらいが県内で、今進学率と就職率を両天秤にかけた時に、この意味ではやはり高専の特徴が出ており、就職率がそれなりの数値を確保できているのかと思っております。大学の場合の工学系ですと、修士課程まで進学するというのがほぼデフォルトのようになっている社会の情勢の中で、若い時から実学に接する教育を私ども担当させていただいておりまして、それによって社会的に貢献していくようになってお思います。ただ、ご指摘のように県内就職率が4割程度は結構低いのではないかと、5割切っておりますので、低いという返事をせざるを得ないところなんですけれども、やはり1つは、例えば香川県内における産業界というものがどのような活動しておられるかというのが、広く市民の方々のレベルでどれぐらい理解いただいているのかということと関係しているのではと思っております。と言いますのは、学生あるいはその保護者さんがよく知っておられる、就職先としてイメージされる名前を考えた時に、地元企業名がどれぐらいの割合で出てくるかを考えますと、技術系で働いている者はよく知っていると思いますが、そうではない方々のところでどれぐらい知っていただけているかということが大きな課題と思っております。我々はこういう数字を出して、今後どうするかということですが、県内の地元の産業界で、あるところの資料では、世界一はこういう会社があります、日本一はこういう会社があります、この業界一はこういう会社がありますといった情報がちゃんと探しに行けばあるのですが、誰もが知っている状態にはなかなかないため、そういう情報をちゃんと学生の耳に届くところ、手の届くところに提供していくことで、香川県でこんな会社が、こんなすごいところがあるんだ、ということを知ってもらうということが大切だと思っております。その上でその分野に興味をもってもらえたら、そこにオプションとして出てくるだろうというふうに思っております。ですので、早くに県内の産業界の様子がどうなっているのかを知ってもらう機会をできるだけを増やしていきたいと思っております。かつては先生が勧めたら大体通った時代もありましたけれども、今そんなわけにはまいりませんので、自発的に相談してもらえよう状況をいかに作るかということが大事だと思っております。これからも企業様の紹介フェアを学内で行う予定としております。今までは、3年、4年生というように少し就職、進路が見えてきた学生に参加してもらっていましたが、今回からは1年、2年生にも参加してもらい、高専に入ったんだから、他業界のことを知ってもらうために、低学年の学生にもよくわからない状態でも、何があるのか見てもらおうと、こういう展開をやっていると思っております。ただ、日本の人口がどうして都市圏に集中していくのかという、この大きな

流れをせき止めるような活動というのはなかなか難しく、若い頃にはいろんなところに行ってみたいという思いがあるのなら、止められないところかとも思っております。でも1回行ってみて、思った通りでそこが合えばそこで頑張ってくればいいのですが、進んでみて、家庭を持って、住んでみて、働いてみて、学校に行っていたころの自分が育ったところは良かったな、できたら帰ってなんとかならないかなと思った時に、あそこがあるんじゃないかと、あそこにチャレンジしてみて仕事ができれば香川に帰ってこれる、こんな風なことをその時にパッと出してもらえるような早い時から地元の様子をちゃんと知ってもらうという、こういう地道な活動をやる以外には難しいのではないかと思っております。即効性のある答えには全然ならないですが、いろんなご助言いただきながら工夫をしていきたいなと思っている部分でございます。

○委員 ありがとうございます。おっしゃるように、産業界の方で今の状況なり、企業の状況なり、現場の状況というのが学生に届くように取り組んでいただくことは大変大事なことだと思います。会議所が協力できることがあればおっしゃっていただければと思います。ただ、それぞれの企業にとっては、圧倒的に人材不足で、それも工業系の人っていうのは、もう喉から手が出るほど欲しいが来てくれないというのが現状であり、なかなか待ってられないので、今後会議所としても、県と協力しながら東アジアや東南アジアの大学生を直接香川に就職してもらおうという取り組みを進めることにしています。そのために、そこの大学に日本語講座を香川県の方が設置して、そこで日本語を学んでいただいて、就職の選択先として香川を考えてもらうというような取り組みを、今後複数の国において取り組んでいこうということでやっています。なぜそんなことをしていくかという、もう地方に工業系の人材が来ない、高度人材としてきてほしいわけで、技能実習という意味じゃなくて、これまでであれば、地元で就職してきた層がほとんど首都圏あるいは大阪圏の方に流れているというのが工業系問わず文系もそうなんですけど大きな流れの中で、地元の特に中堅企業あたりはものすごく困っているというのが実態です。そのため、東アジア、東南アジアの工業系の大学に特に目を向けて、新しいものをせざるを得ないという現状です。ぜひ地元の中での育成っていうのを今以上に意識していきたいと思っておりますので、初めに申し上げましたとおり、協力できることあればなんなりとおっしゃっていただきたいと思っております。以上です。

○田中校長 ありがとうございます。是非ともいろんなところで連携させていただきたいと思っております。

## 議題2. 令和4年度香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）

○委員長 只今の説明につきまして、ご質問ご意見等ございましたらご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

○委員 この「改善を要する」の1の評価については、いつまでとか、期限みたいなのは設定しているのでしょうか。

○田中校長 これは自己点検でございますので、どこから期限を設定されているというわけではございません。学校の運営として不十分なところがあるという認識を持ったということでございますので、できるだけ速やかに対応する必要があり、毎年年度計画のチェックをしておりますので、その中で該当するところはその時までにはきちん対応しているというのが基本的なタイムスケール感かと思っております。特に学生と直接関わるようなところにつきましては速やかに対策を整え

るということになります。

○委員長 他ございませんでしょうか。お願いします。

○委員 再点検ということで、一度3をつけたものを1にするのは、非常に勇気がいったところだと思いますので、逆にそこには敬服いたしております。

議題1の話をしてよろしいですか。議題1の方で2, 3ありますが、まず、今日産業技術振興会の代表で参っておりますが、いつも申しあげておおり、120社以上県内の企業に入っただき、皆さんから毎年会費もいただいております。1つの目的は、高専の学生に来てほしいというのがポリシーじゃないかと思えます。地元の就職率というところで、今年の資料は詳しく、前の意見が反映された資料になっており良かったと思えます。(就職率が)40%が少ないというような意見だったんですけど、私は逆に40%もあるんだなということでびっくりしました。私は2期生なんですけど、40名で入学して35名で卒業し、就職はたったの3名でした。ということは10%もいなかったんで、その頃の思いからすればずいぶんよくなったと逆に驚きました。私どもの会社は、香川県に賛同して各ネーミングライツや、サッカーのトップスポンサーになったりして、先ほどもご回答の中にあつたおおり、皆さんに知ってもらわないと実際難しいのではないかなということで、色々実施しております。この11ページにもございましたおおり、企業との連携によるKLB型授業の取り組みということで、私どもの会社を取り上げていただいて、私の顔まで写していただいて、ありがとうございます。たぶん写真は昨年のもんと思えますけど、一昨年から始めさせていただいたと思えますけど、ちょうどタイミングよくと言いますか、昨日、昨年発表会が私どもの会社でありまして、昨日も見せていただいたところです。皆さん頑張って、実践的な機会を作っているというふうに思っております。次年度の実施についても念押されましたので、次年度も実施させていただきます。以上は質問というよりも色々な意見だったんですけど、質問として、広報戦略というのが7ページにありますけど、入学・受験生を増やさないといけないということで、私も身内から耳にすることがありますが、受験料が、公立高校2~3000円程で、高専は受験料が1万2千円ぐらいで、少し敷居が高くなっているんじゃないかなと、どこまで影響するかはわからないですけど、桁が違っております。国立ということなので、高専機構の取り決めなんでしょうけれど、同じ中学の生徒が受けるにはですね、あまりに学校は違えど、受験料が違いすぎるなっていう印象を受けました。それと驚いたんですけど、高専に合格したら絶対高専にいきなさいよと、お約束があるらしいんですね。前も申しましたおおり、私はここ入ったのが60年ほど前なんですけど、先生に、高松高校に願書を出している者は、全員高専を受けなさいと言われ、先に試験があるため、試験受験の場慣れのため受験し、私は来るつもりじゃなかったんですけど、合格したため、せっかくだから、ほんなら行こうかと、大変失礼なんですけど、結果的にはきて非常に良かったんでありがたいと思ってるんですけど、そういうきっかけということもありますけど、なぜ初めから受かったら絶対行くという縛りがかかったのか、ちょっと他の県で聞いてみたらですね、そんな聞いたことないよという風に、香川県だけの問題なのか、高専機構の指導なのか、そこをちょっとお聞きしたいです。受験料の問題と。よろしくをお願いします。

○田中校長 受験料の金額は、高専機構が定めており、学校の裁量の中にはないところではあります。公立高校と高専との入学試験チョイスの問題ですが、私の知る限りここだけということではございません。多くはないですけど、いくつかの具体的な名前は控えておきますけれども、他高専の校長と話をしておりますと、そうなるよっていうところもおられます。これは教育委員会の進路指導でご対応いただいているところの中に、私どもも一緒に行先として入れていただいているということだと思えますけれども、ちょっと私の任期の前からそういうふうなお答

えをいただいているということで、経緯についてはちょっとわかりかねます。ご質問の背景として、試しに受けてようとする学生を除外しているような感じになっているところがあるのかなとは思いますが。実際、私どもの入試の倍率をだいたい平均的に均しますと、1.2倍くらいの数字になります。私が最近状況を認識して、我々がもう少し考えなければいけないと思ったのは、公立高校様の推薦の倍率が報道されました時に、推薦入試2倍で、これは昨年よりも下がっているというような報道がされており、その中で本校の推薦入試の倍率を考えますと、格段に低いということですので、やはり中学生のところ、その保護者さんのところに、高専という選択肢を、名前としてはいろんなイベントごとでは知っていただいていると思うんですけども、自分の進路の中になかなか入れてもらえてないのかなというような感じが致しております。知っていただいている方にはそれなりに評価いただいていると思うんですけども、やはり知っていただいているマスが小さいのではないかなというようなのが私の現在の個人的な印象でございます。それともう一つ、先ほど副校長の方から県外からももっとたくさんに来ていただけるようなという話があったんですけども、これも私は制度で知らなかったんですけど、公立高校で全国募集というのをやっているわけで、県立高校はちゃんと全国募集してらっしゃるのに、もともと組織上は県に縛られていないはずの高専が、手薄であるということは、やっぱりもうちょっと考えないといけないのかなという報道記事を見たところで、自分たちの県立高校様の志願者状況と本校の状況比べた時にどこに違いがあって、何が我々がこれからチャレンジするところかなと、ひとつの鏡になるのかなと思った次第でございます。今ご質問のところにお答えられているわけでは全然ないんですけども、多様なところから受験生に来ていただくためにはまず知っていただく、本校の場合、統合してから十年以上は経っておりますけれども、やはりまだ詫間電波、高松工業というお名前前で馴染んでいただいている方々も非常に多くおられます。やはり香川高専という名前をちゃんと広く知ってもらおうということがまず大切なと思ひまして、法被も作成しました。残念なことに今までこういうものはキャンパスのものしかなかったんです。県内にいる時はそれでいいかもしれないけど、県外に出て行った時にはやっぱりいけないということで、香川高専という名前をちゃんとブランディングしていきたいと思っております。前回、前々回にこの委員会において、広報についてご指摘を受けまして、総務・広報室において検討いただいて、こういう形になってきております。今のご指摘の答えとはだいぶずれてしまっておりますけれども、やはり受験生に対しどのようなものを提供するかという観点で考えていくことはたくさんあるなと思っております。

○委員 ありがとうございます。広く知っていただくことは絶対大事ですが、地元の学生が卒業して地元就職しないのに、他県から来ても香川県にはもっと就職してくれないんじゃないかと感じております。

○田中校長 先日、「かがわ産業振興クラブ」のセミナーを聞かせていただきました。地元企業のことを知っていただければチャンスが出てくるんですけども、他府県で勉強した人が、香川の企業を選んでいただくということは非常にほとんどまれだと言わざるを得ないと思っております。セミナーの際に、UIターンを専門にやっているという講師の方がお話しておられましたけども、どこかに人材を集めてきて、全部そこで救おうというのは無理な話なので、元の救うマスをいかに増やすかということを考えていくことが必要んじゃないかと思っております。そういった結果、地元の人々の希望が叶わなくなるということも一部にはあるかもしれませんけれども、やはり先ほどありましたように、技能生ではなくて高度人材を育成しているところですので、高度人材として我々が育てさせていただけるような、そういう方ができるだけ来ていただければと思っております。委員のおっしゃるような観点ももちろん重要であって両立するっていうのは難しいかと思っておりますけども、いろんなトライをやっているかないといけないのかなというところで

ございます。

○委員長　最後に予定しておりましたが意見交換が先になってしまいました。改めまして、まず議題2の令和4年度香川高等専門学校自己点検評価：再点検（企画評価室）に関するご意見ご質問等を改めてお伺いしたいと思います。何かありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、改めて本日の議題1・2に関しまして、ご質問、ご意見、ご指摘等があれば、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○委員　今日は詳しい説明ありがとうございました。2点お聞きをしたいことがあります。議題1の方になりますが、志願者数が令和2年までは増えてきて、その後減少傾向に転じたという、コロナ禍の影響というご説明もありましたけども、令和6年になってもまだ戻ってないですが、そのあたり、その減少した原因はどういったところにあるというような分析をされておられますでしょうか。それが1点目です。

○田中校長　ご指摘ありがとうございます。コロナが何でもエクスキューズになっていた時代は終わっており、戻れてないっていうのは大きな課題なんです。実は本音で申しますと、何が原因で、どう増えてきたのかがちゃんとつかめていないところが一つではないかと思えます。ただ継続的に本校の教員や学生が、いろんなところで活躍をしてくれたことが大きかったと思います。それに対して、その活動が少し見えづらくなったままここまでできているのではないかと考えているところです。見えている方々には見えている、意識して見ていただいている方には見えている形なんだけれども、そうではなく大きく見えるような形に戻ることができてないと思っています。

それと、その中で社会で求められることに対する感覚も変わってきていると思います。産業界で求めておられる人材、従来のものがいらなくなって新しいものというわけではなく、従来のものに加えて、新しいものも必要になっていると思いますけれども、どうも従来のものっていうのは古いものになっているような印象がだんだんと強くなってきていて、私も出身機械系でございますけれども、機械っていうだけでなんか古いものだというふうな印象がどうしても広まってしまっていると感じます。古いものだけでは動けてないが、新しいものだけで動くわけでもなくって、そこがなかなか伝えていけないのかなという気はいたします。

逆にですね、いろんな観点からのご指摘を頂戴したいなと思っており、例えばですけども、21ページのところにありますとおり、情報系学科・コースの新設・拡充を検討しておりますが、これは望まれている社会、望まれている人材を考えた時に、やはり今DX時代、デジタル時代というようなことを言われるわけですけども、我々が方向を定めていって、ここを受けてみよう、ここで勉強してみようといった学校が変わっていかないといけないのかなと思っております。それが委員からご指摘の点にちゃんと対応できる道ではないかと思っております。その時にキーワードが2つあるかと思えます。先ほどのDX、デジタル人材だと言われるようなカテゴリーが本当にバーチャルだけの世界ではないはずなので、そこがどうなのかと、どのぐらいのバランスなのか、たぶん中学生の学生さんから見える時にはどう見えているのか、何を学びたいと思って、それがきっかけになるのか、中等教育を担当いただいている現場で見ておられる方々、あるいは産業界で見ておられる方々で違うのかなと思ったりします。もう一つの観点は先ほど留学生の話でもご指摘いただきましたけれどもグローバル化ということですね、グローバル人材って言われる言い方になるようなところがどういうふうに我々バランスをとってやっていく、何が求められているのかということですね。いろんな立場からのですね意見を逆に頂戴したりいただきながら、委員のご指摘のところを元に戻すようなですね。方策を練っていきたいと思っております。ございま

す。できましたら、各お立場からご意見を頂戴できればと思っております。

○委員 ありがとうございます。よく分析していただいて、志願者数が増えるように取り組みをお願いしたいと思います。もう一点だけお聞きしたいのは、広報戦略のところなんですけども、確認なんですけど、記者クラブへの投げ込み件数4件とあるんですが、年間で4件ですか。

○田中校長 実はこれまでほとんどそういう活動をやってなかったというのが悩みですね。

○委員 この数字見てちょっとびっくりしたんですけども、香川高専の活動で記者さんの取材に値するものはたくさんあると思うんですよ。それが年間で4件ということで、ちょっと信じられない数字があったので。例えば高専の方で、そんなにこれ取材に来てくれないだろうというふうに思っているけども、取材するしないは記者さんの判断なので、そこはどんどん積極的に資料を出していったほうがいいと思いますし、もう少し加えますと、記者の方が飛びつきそうな資料を作って、これなんか面白いニュースにできるとか、そういった資料提供すると記者さんは来てくれると思いますし、ただでPRの広告ができるため、もっと充実させていけばいいのかなというふうに思っていますので、そのあたりよろしくお聞きしたいと思います。

○田中校長 ありがとうございます。投げ込みに関しましては、詫間キャンパスは、三豊市と一緒に何かやるっていうことが、高松キャンパスに比べて密なのところでございまして、情報の発信を部分的に三豊市様の広報に頼っていたところもございまして、学校から直接っていうのはそんなに多くなかったわけでございます。昨年、一昨年にこの場で委員の方々に出し方が全然分かってないということも言われておりまして、委員の方からご指摘をいただいて自分たちの実態が見えてきたという非常にお粗末なんですけれども、今後は、委員がおっしゃるように積極的に資料を出していきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員長 他ございませんでしょうか。どうぞ。

○委員 3ページ目、志願者と倍率の関係なんですけど、学科によってずいぶん志願倍率が違ってきますけど、第1志望という書き方をされているということで、確認でお尋ねするんですけど、受験生の方には第1志望第2志望とかいう形で希望を取って、第1志望の学科で定員をオーバーした場合でも、第2志望の方で水準に達している場合は、合格としているということでしょうか。

○田中校長 そのとおりでございます。

○委員 希望された学生さんですので、学びたいということでセカンドチャンスをちゃんとあたえているということなんですかね。

○田中校長 はい、そのような形をとっております。

○委員 はいわかりました。ありがとうございます。

○田中校長 ただ、私どもが非常に残念だと思いますのが、第1希望しか書いていない受験生もおられまして、それは思い込みを持っていただいて非常にありがたいんですけども、いろんな情報を私どもからお出ししておりますが、それでわかっている部分と、その一部だ

けしか見ていただけてない部分があって、学科の名前のキーワード1つだけでとらわれてしまわれている受験生さんがおられるっていうのは非常に残念で、そこで第2、第3希望を書いていただけない限りは、対応ができないため、さらなる情報提供が必要だと思っております。

○委員長　ありがとうございます。他ございませんでしょうか。

○委員　私はですね、あの40年前にこちら高松高専の時に卒業したんですけど、中学校から五年間入って、就職は県外の方に出てですね、10年後にUターンして帰ってきたんですけど、それまで帰りたいなと思いながら、探すのは結局独力で探して、県外から実際に探すとなると、やっぱり何件もいけなくて、どうしてもそのUターンになるんで自分で調べる会社っていうのはやっぱり中小企業の方が多くなっているところがあります。10年かかってこれはという会社に就職したんですけど、今、この就職の話だと、新卒の人が対象の統計が多いと思うんですけど、OBの人材をもっとこう活用できるような、そういうような仕組みがあればよいと感じました。実際、中小企業の会社でもですね。新人をこう教えていくのって本当大変で、どうしてもやっぱりキャリアがある人の方が、教えなくていいっていうのもあるんで、もしそういうつながりがあれば、多分いいんじゃないかなとは思いました。以上です。

○田中校長　ありがとうございます。これはたぶん微妙なお答えをせざるを得ないのかなと思いますが、我々学校が学生に就職先のお世話をできるのは、自校の学生であるから職業安定所以外で我々が、学校がすることができるという1番基本の立て付けは変わっていないと思います。ただ、教員と個人的には繋がりでいろんなお話でこんな会社あるよとか、こんなことやっているところがあるよとかいうようなお話っていうのは、これは個人ベースのところはあるかと思うんですけど、学校の組織としてやること自体、非常に微妙な問題というか機微に触れる問題ではないかと私自身思っております。

○委員　昔は、そういうことですごく苦勞されたと思います。今はインターネットができたということもありますけれども、転職支援に関してのプロフェッショナルが増えてきて、特に、Uターンとか、場合によってはIターンですね。結婚相手の女性が香川県出身で故郷に帰りたいからということで、県外である程度キャリア積んだ方が、こっちで就職先を探すとかいうのを支援する企業も増えております。私ども産業支援財団の中にも、プロフェッショナル人材戦略拠点という国の委託事業でやっているのがありまして、30代以上ぐらいの、ある程度経験を積んだプロフェッショナル的なスキルがある方が地元企業に転職する時の支援で対象企業とうまくマッチングして、転職してすぐ合わないからやめちゃうみたいなこと起きにくいような事前調整をするようなサービスやっている部門もございます。また、県の方では、ワークサポート香川という就職移住支援センターで、サポートのシンボルタワーの中で県が行っている無料紹介所があります。ここも新卒のUターンだけじゃなくて、中途の方々の支援も、ある程度いろんな地元企業の情報を集めて開示しながら、コーディネーターがマッチングして、その方に合う企業をある程度選んで紹介するようなサービスも今できているので、そのあたりをうまく使いながら、また、逆に学校は、先生方にもそういうのはあるよということを認知していただいて、ご相談があった場合は、そういう形で県内にサービスする機関ができておりますので、うまく使っていけたらいいんじゃないかなと思います。

○委員　補足しますと、市でも多分県でも最近、経験者枠という採用枠がありまして、いろんな技術系の方も毎年採用してますんで、そういったものも活用していただけると、こちら転職する可能性は広がるのかなと思います。

○委員　私は高松職業安定協会の会長も致しております。結局、中途採用で人材が取ればそれは大変ハッピーなんですけれど、その逆を考えれば、せっかく自分が育てた人材を取られるわけです。そのため、これは非常に厳しい話だなと思います。特に高松市の方がおられるのでなんなんですけど、最近、公務員募集で、私どもの会社からも高松市ではなかったんですが、会社辞めるのでどこ行くんだと聞いたら某市だということで。だからやはり、すべて取るほうと取られるほうの両方について考える必要があると思います。すみません、失礼しました。

○委員長　いかがでしょうか。

○田中校長　私から委員の皆さまに教えていただきたいところがあるんですけど、先ほど申し上げました中等教育に関わられておられる、委員に少しお聞きしたいところなんですけれども、中学生、中等教育の中から私どものような学校を進路先として考えていただくときに、今、社会で言われているデジタル人材とかは、今の中等教育を受けてらっしゃる生徒さんにはどんな風なイメージで見えており、どんな風なところで勉強したいと、どんな風な分野を勉強したいと思っておられるのか、少しあの知見がありましたらご教示いただけたらと思うんですけども、お願いできますでしょうか。

○委員　ご指名もありましたので、現場のリアルというところで、送り出す側の実情として、いくつかお話しできたらなと思っています。今年度、本校を卒業して香川高専にお世話になった卒業生が母校訪問ということで来てくれました。魅力を伝えるに、私服で、中学校時代とは違った垢ぬけた感じでやってきてくれました。本年度も推薦の合格の中に女子1名おり、やはり女子の理系への関心の高まりは感じておりますし、今回お話を聞きしますと、詫間の女子寮もオシャレになるということで、高校でもない大学でもない、高専であるというこの部分が、やはり魅力として伝わるのが大事かなと思っています。例えば、高松と詫間にキャンパスを両方もっている、こういうところも非常に魅力ではないかなと思っていますし、また先日、今年50歳になる卒業生と同窓会をした時に、進路指導で高専の方へ行き、今も技術的に頑張っておる者からも、やはり高専は高専であるということを知ったので、そこが何なのかというところがすごく大事になるのかなと思っています。今回、3年生の学年主任が進路指導をしています、学年主任とも話をする中で、やはりオープンキャンパスに出れば魅力が本当によく伝わっていたと聞いています。1つは、やはり卒業後の就職先で、こういう企業が高専を支えているということを知ること、それと卒業の進路についても多様化に開かれている、途中からこう大学の方へつながるとか、非常に弾力的になっていることが、やはり子供たちにとっては安心して進むことができることにつながっていると思います。これは、オープンキャンパスに出ればそれがわかるということなので、戦略としてはそのオープンキャンパスにいかにつなげていくかというところが、中学校側も考えるところかなと思っています。実際、今まさに進路の真っ只中でありまして、去年、今年と担当していますが、感じるころはやっぱり進路が多様化していると思います。昔はやはり公立優位で公立の方が経済的負担も軽くて、進路も開かれるということだったんですが、その学費の負担の格差が非常に縮まっておりますので、公立私立の差がもうほとんどないというところに、第三極としてサポート校ですと、通信制とかこのあたりが出てきて、私立の校長先生と話しても、卒業生の進路先が増えていると感じます。しかも子供の状況としてはなかなかまだ固まっていないう状況、中学校3年生、やはり思考としてはやっぱり普通科のところでもう少し自分の様子を見てみたいという子供が多くて、例えばもう私立でも公立は受けないとか、サポート校に進むから、もう公立は受けないとか、こういう子供の数が増えています。なので、子供の数が減っている中で、なおかつもう一つ減っている状況があるので、やはり数の問題として少なくなっているの

ではないかなと思っております。その中で実際進路指導する中で、やはり今まで、例えば私立の高校はその公立で溢れた子供を受け入れて、その子をどう育てるかというところで、個別の対応とか、育てるところのノウハウを私立が持っているところがありまして、そういうところに魅力を感じて、公立ではなく私立の方へという子供も増えているように感じているところです。調査書も作っていくんですが、私も何十年もしておるところなんですけれども、高専に進む子供の調査書を作る際には、どんなものづくりをしていたのかという話で、古く私の若い頃は、例えばラジオのキットを作っていたとか、趣味でこういうことをしていたとか、そういうこのものづくり体験を引っ張り出して、調査書に載せてアピールするということをしておったんですが、やっぱり子供と話をする中で、やはりそういう経験は少し少なくなっているかなと、ゲームとかではしているんだけど、自らがプログラムを組んだり、ものづくりをしているというところはなかなか少ないのかなということを感じております。今年が昭和で言うと99年になるということなんですけど、私の当たり前前に思っている昭和の姿がちょっと違っているかな、問い直しが始まってあって、多分その理科離れという言葉なんですけど、言い換えれば理科や科学の面白さに触れていない、まだ白いキャンパスの子供が多いかなというふうに感じているんですが、逆に言うと、それは染めるチャンスだなというふうに感じているところです。今回1・2年低学年を大切にさせていただけるという方針が示されているので、これは送る側としては非常にありがたいところです。やはりこう興味付けから始まるカリキュラムであるとか、関心を育むとか、基礎学力もちょっと足りない部分があるかもしれませんが、そこも育てていただける、多様な子供が参るんですけど、白いキャンパスということで高専の色に染めていただくという初期のカリキュラムがあると非常にこう学校側としては送りやすく感じます。ここまでできてないと高専はいけないんだというのではなくて、高専に行くとか何かが見つかるかもしれないよというところで押し出せる状況を作っていただけると、非常にありがたいかなと思っております。あと入試の手続きで今日ドキッとしたのはアドミッションポリシー確認表です。ここまで大きく取り上げられているとはという現場の感覚であります。学級担任が評価をして中学校長が確認したということで、非常に責任の重い作業を私はしているのかなと思いましたが、しっかり面接で確認をしていただければと思いました。最後です。やっぱり過去においてロボコンですごく人気が高かった時期もあったと思います。また、私が仁尾小学校の校長でおった時に、八朔人形祭りを見に行った時に、詫間キャンパスの浦島太郎伝説のようなからくりのロボットが出てきた時に、子供が言っていたのは、やっぱり高専かっこいいと。やっぱりもう高専かっこいいというところが一つポイントではないかな。そういうあの体験とかそういう部分をあのいろんなところにちりばれていただければ中学校側としても背中押ししやすいかなと思っております。以上であります。

○委員長　それでは委員の皆様からの意見も出尽くしたようですので、以上をもちまして、令和5年度香川高等専門学校外部評価委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

○田中校長　長時間に渡りまして、本当に貴重な意見をいただきありがとうございました。今後ともこの公式の場に限らず、いろんなところで是非ともご指導賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。